

事 業 報 告

1 法人本部

本年度は、第五期中期基本計画（令和3～5年度）の最初の年として法人本部、高齢、障害、児童部門とも、計画に沿って事業を進めた。いまだ、新型コロナウイルスの終息も見えない中、感染防止に徹底して取り組み、事業を継続実施することができた。

本年度の特徴的事業としては、グループホームの再編により事業転換した「RENGA」を活用し、収益事業を開始した。また働き方改革の一環として、各種休暇制度の改正や新勤怠システムを導入し事務のICT化を行った。

1 法人全事業でサービスを提供した人、件数（延数/年間）（昨年度比）

障害者関係	施設サービス	116,076名	（昨年度 108,580名）	7,496名増
	支援・相談等	31,590件	（昨年度 28,105件）	3,485件増
高齢者関係	施設サービス	28,086名	（昨年度 29,357名）	1,271名減
	支援・相談等	10,178件	（昨年度 10,535件）	357件減
合計	施設サービス	144,162名	（昨年度 137,937名）	6,225名増
	支援・相談等	41,768件	（昨年度 38,640件）	3,128名増

2 理事等役員及び職員数及びボランティア数（令和4年3月31日現在）

理事	7名	正規職員	192名（昨年度比 9名増）
評議員	9名	嘱託職員	40名（昨年度比 1名減）
監事	2名	臨時職員	124名（昨年度比 1名増）
第三者委員	3名	職員合計	356名（昨年度比 9名増）
ボランティア数	延 1,052名		

3 苦情解決 苦情受付件数 17件（障害者施設 13件 高齢者施設 4件）

4 職員採用、異動等

- (1) 採用 21名（一般支援 15名 看護師 4名 保健師 1名 一般事務 1名）
退職 7名（一般支援 3名 看護師 2名 栄養士 1名 言語聴覚士 1名）
*内、定年退職者 3名
- (2) 人事異動 24名（昇任 10名 配置転換等 14名）

5 資格取得者数（令和4年3月31日現在 延数）

社会福祉士	78名	介護福祉士	74名	介護支援専門員	39名
精神保健福祉士	16名	看護師・保健師	26名	保育士	28名
理学療法士	3名	作業療法士	3名	言語聴覚士	4名
心理士	8名	管理栄養士・栄養士	4名	初任者研修	28名
サービス管理責任者	56名	相談支援従事者	31名	強度行動障害養成	88名
児童発達支援管理責任者	6名				

※本年度 当法人資格取得支援制度による合格者 7名（昨年度 3名）

6 理事会の開催

- (1) 第1回理事会 令和3年5月28日（金）対面・オンライン開催（出席者 7名／7名中）
- ① 議案第1号 令和2年度事業報告について
- ② 議案第2号 令和2年度資金収支計算書・事業活動計算書・貸借対照表について

- ③ 議案第 3 号 令和 2 年度決算附属明細書について
- ④ 議案第 4 号 令和 2 年度財産目録について
- ⑤ 議案第 5 号 令和 2 年度社会福祉充実計画の承認について
- ⑥ 議案第 6 号 定款の一部改正について
- ⑦ 議案第 7 号 評議員選任・解任委員会の委員の選任及び委員会の開催について
- ⑧ 議案第 8 号 評議員候補者の推薦について
- ⑨ 議案第 9 号 理事及び監事の選任に関する議案の評議員会への提出について
- ⑩ 議案第 10 号 組織等規程の一部を改正する規程について
- ⑪ 議案第 11 号 職員就業規則の一部を改正する規則について
- ⑫ 議案第 12 号 職員給与規程第 14 条に規定する理事長の承認に関する規則の一部を改正する規則について
- ⑬ 議案第 13 号 臨時職員就業規則の一部を改正する規則について
- ⑭ 議案第 14 号 育児休業等規程の一部を改正する規程について
- ⑮ 議案第 15 号 介護休業等規程の一部を改正する規程について
- ⑯ 議案第 16 号 役員等賠償責任保険の契約について
- ⑰ 議案第 17 号 理事長の選任について
- ⑱ 報告事項 理事長の職務執行状況について
- (2) 第 2 回理事会 令和 3 年 6 月 22 日 (火) 対面・オンライン開催 (出席者 7 名/7 名中)
 - ① 議案第 18 号 理事長互選
 - ② 議案第 19 号 苦情解決第三者委員の選任について
- (3) 第 3 回理事会 令和 4 年 3 月 14 日 (月) オンライン開催 (出席者 7 名/7 名中)
 - ① 議案第 20 号 令和 3 年度収支補正予算 (第 1 回)
 - ② 議案第 21 号 令和 4 年度事業計画
 - ③ 議案第 22 号 令和 4 年度収支予算
 - ④ 議案第 23 号 職員就業規則の一部を改正する規則について
 - ⑤ 議案第 24 号 職員給与規程の一部を改正する規程について
 - ⑥ 議案第 25 号 施設長人事の同意について
 - ⑦ 報告事項 理事長の職務執行状況について
法人設立 30 周年記念事業について

7 評議員会の開催

- (1) 第 1 回評議員会 令和 3 年 6 月 21 日 (月) 対面・オンライン開催 (出席者 9 名/9 名中)
 - ① 議案第 1 号 令和 2 年度資金収支計算書・事業活動計算書・貸借対照表について
 - ② 議案第 2 号 令和 2 年度財産目録について
 - ③ 議案第 3 号 令和 2 年度社会福祉充実計画の承認について
 - ④ 議案第 4 号 定款の一部改正について
 - ⑤ 議案第 5 号 理事の選任について
 - ⑥ 議案第 6 号 監事の選任について
 - ⑦ 議案第 7 号 苦情解決第三者委員についての意見聴取について
 - ⑧ 報告事項 令和 2 年度事業報告

8 事業並びに会計監査 令和 3 年 5 月 21 日 (金) (赤塚監事、安田監事)

令和 2 年度事業及び会計監査を施設長並びに会計担当者からヒアリング、書類審査等

9 令和3年度第1回評議員選任・解任委員会 令和3年6月8日(火) 対面・オンライン開催
(出席者5名/5名)

① 議案第1号 社会福祉法人武蔵野評議員の選任について

10 各種会議・委員会の開催

- (1) 経営企画会議 法人経営、施設運営に関する報告、検討、決定 毎月2回開催
- (2) 施設長会議 経営企画会議を受けて報告、検討、決定 毎月2回開催
- (3) 人事給与検討委員会 給与制度改正のための検討(令和3年度は経営企画会議にて実施)
- (4) 中期計画進捗管理チーム中期基本計画第五期の計画の進捗状況の確認及び実施推進協議等
- (5) 苦情解決第三者委員会及び虐待防止委員会 苦情等の解決に向けての協議、対応等
- (6) 中央衛生委員会 職員の労働環境や健康、衛生に関する検討、実施 年4回開催
- (7) 情報セキュリティ委員会 個人情報保護、漏洩防止の検討、実施(施設長会議で毎月開催)
- (8) リスクマネジメント委員会 事故事例検討、再発防止対策等の協議(施設長会議で毎月開催)
- (9) 広報委員会 法人ホームページ運営(法人・施設の最新情報を毎月更新) SNS 管理
法人広報紙「ふれっそ」を年4回発行(第52号から55号)
法人内月報「武蔵野日記」を毎月発行
武蔵野ポータルリニューアル(法人内の連絡情報の迅速な共有)
- (10) 災害対策委員会 大規模災害等のBCP作成、訓練、協議、対応など
 - ① 防災訓練等(障害者総合センター) 1回
令和3年11月27日(金) 避難訓練
 - ② 普通救命講習(正規職員は全員取得を義務付け)
今年度は新型コロナの影響のため中止
- (11) 第12回実践発表会 令和3年11月26日(金) 参加者35名 エントリー数15事業所
発表4事業所(あいる、武蔵野福祉作業所、ゆとりえ、大地)
動画撮影により初めてYouTubeにて配信
- (12) 快適職場アクション2021 誰でも相談室の実施(毎月第三火曜日)
ストレスチェックの実施(令和3年7月15日~31日)
新任施設長、係長、主任面談
- (13) 職員確保プロジェクト 学校等へ広報活動、各種就職セミナー参加、人材会社紹介活用他
中途採用者17名、新卒者4名、合計21名採用
令和4年度採用内定式 令和3年10月26日(火) 懇談会等
- (14) 研修委員会 職員研修計画、企画、検討、実施運営 随時その都度開催
 - 1) 初級職員研修(対象:1~3年目職員)
 - ① 採用時新人職員研修(対象:新人職員) 全7回
実施日 令和3年4月1日(水)~2日(金)他6回 参加者25名
内 容 法人及び各事業所の概要と課題、支援・介護の基礎、各種規程等の講義
 - ② 半年後新人職員研修(対象:新人職員) 全2回 参加者18名
実施日 令和3年9月6日(月)/10月7日(木)
内 容 理事長講義、アサーティブ初級研修
講 師 人材育成コンサルタント 三好良子 先生
 - ③ 初級職員研修(対象:2年目職員) 全2回 参加者19名
実施日 令和3年9月6日(月)/10月7日(木)
内 容 理事長講義、アサーティブ応用研修

講 師 人材育成コンサルタント 三好良子 先生

④ 初級職員研修 (対象：3年目職員)

実施日 第1回 令和3年10月4～8日 研修説明会 オンライン研修 参加者32名

実施日 第2回 令和3年11月16～22日 構想発表 グループワーク 参加者32名

実施日 第3回 令和4年1月17～21日 実践発表会 オンライン研修 発表者31名

※2年目職員19名視聴参加

内 容 提案力・伝達力・育成力強化のための業務上の課題、取組、成果を各自発表

2) ファシリテーション研修 (対象：3年目研修のファシリテーター職員への研修) 全2回

実施日 令和3年9月10日(金)/令和4年2月25日(金) 参加者10名

内 容 ファシリテーション基礎講座

講 師 メンタルクリエイト 江口毅 先生

3) 中堅層・リーダー層研修(対象：3年目研修を終えた4～5年目職員)

全1回 参加者14名

実施日 令和4年1月28日(金) オンライン研修

内 容 「人を育てる人になる」人材育成を学ぶ

講 師 C&P, etc. 代表 尾崎眞三 先生

4) 新任係長評価者研修

実施日 令和3年4月9日(金) 参加者3名

内 容 「人事評価制度の説明と評価者の留意点を学ぶ」

5) 施設長研修 (対象：施設長級職員) 参加者16名

実施日 令和4年3月2日(水)

内 容 労務管理研修、理事長講義、

講 師 メンタルクリエイト 江口毅 先生

11 新型コロナウイルス対策 新型コロナウイルスの対応、協議等の会議を毎月開催

12 地域交流 むさしのあつたかまつり 新型コロナ感染症のため中止

13 その他

(1) 月次会計監査の実施 会計事務所による会計監査の毎月実施(消費税計算及び会計相談)

(2) 外部監査 今年度は無し

(3) 安全運転管理業務 安全運転講習会は今年度は無し 法人保有車両42台 自転車45台

(4) 新勤怠システム導入 出勤、有休、超過勤務等の申請管理の新勤怠システムを導入



第12回実践発表会 令和3年11月26日

2 ワークセンター大地

1 事業運営

今年度は、年度初めに特別支援学校を卒業した男性1名が入所した。また5月下旬に他市のグループホームに入居するため退所された。

今年度も新型コロナウイルスの影響で昨年度同様感染予防対策を講じながらの運営となった。総合センター内で感染者が数名判明しリスクが高まった時期には、感染拡大防止のために生活介護3事業所を6日間休業とする対応を行った。

事業運営に関しては家族会が開催できなかったため、必要な情報は書面や電話でやりとりするようにした。個別面談を対面式とオンラインと選択できるように設定したが、センター内の感染状況もあり数名の実施となった。活動では広義の「はたらくこと」を大切に、様々な受注作業や軽作業を中心に取り組んだ。またコロナ禍で外出や外食、調理活動等の利用者が楽しみにしている活動を中止したため、代わりに月1回の小さなイベントを企画し、その中でお楽しみや学びの機会を設けた。第五期中期基本計画に連動するプロジェクトを立ち上げ、①オンラインを活用した活動や交流、②ストレングス視点での個別支援計画、③認知症の研修や認知症を疑われたときに活用できるアセスメントを検討・実施した。福祉サービス第三者評価を受審した。

2 利用者の状況と活動内容

(令和4年3月31日現在 単位：人)

(1) 利用者数 (定員40名)

	前年度末	入所	退所	年度末
男性	26	1	1	26
女性	9	0	0	9
合計	35	1	1	35

(2) 障害者総合支援法による障害支援区分の数

区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	14	17	4	0

(3) 年間利用状況

延べ人数 年間合計 7,263人(通所サービス日数 242日) 1日平均 30.0人 (75%)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
661	556	670	588	574	591	660	606	636	569	481	671

(4) 活動内容

グループ	作業活動	生活活動
サンカ	軽作業、受注作業（キャンプ道具や救急セットの封入）、和紙づくり、自主製品等の作業（押し花コースター、栞づくり、ビーズ）、チラシ配布、ポスティング、他	図書館活動、買い物、音楽鑑賞
ナナカ ハッカ	受注活動（食品関係、封入封緘等、折り作業）、軽作業、紙作業、公園清掃、石拾い、ポスティング、チラシ折り、刺繍、他	スポーツ（ウォーキング、室内運動、市主催のスポーツ広場の参加）、図書館活動、iki なまちかど保健室の活動参加

※コロナ感染防止対策の為、宿泊旅行や1日外出、外食、調理、カラオケ等のプログラムは中止し、小さなお楽しみを企画した。

また、緊急事態宣言発令中やまん延防止措置期間は図書館活動や買い物は控え、外活動においては密を避けながら行った。

(5) 工賃の支給について

工賃規定にもとづいて以下の工賃を支給した。令和3年度1年間の支払い総額は1,216,420円であった。

3 地域関連機関や団体との連携

(1) 実習の受け入れ、見学

- ・特別支援学校生徒 6名
- ・社会福祉士実習生、特支等保護者・教員、等

(2) iki なまちかど保健室とのオンライン活動と手話ソング発表会の開催

(3) にじの糸（裁縫ボランティア団体）の協力を得て、創作活動の素材を商品化した。

4 職員研修

(1) 施設内研修

ストレングス研修／つむラボ／権利擁護虐待防止研修／情報セキュリティ研修／感染症研修／防災合同研修／ケース検討会

(2) 法人研修

2、3年目研修／施設長研修／実践発表会／高齢化研修

(3) 外部研修

東京都障害者通所活動施設職員研修／東京都社会福祉協議会主催研修／東京都社会福祉協議会福祉人材センター主催研修／日本てんかん協会主催研修 等

5 苦情受付件数 0件

3 デイセンター山びこ

1 事業運営

今年度は新規利用者はおらず、昨年度と同じメンバーでスタートしたが、4月初めにわくらす入居のために1名、5月末に1名、1月初めに1名の方が退所された。後者のお二人はいずれも他法人の運営するグループホーム・生活介護事業所に移られた。従って年度末の在籍は3名減の44名となった。

今年度も新型コロナウイルス感染症対策に迫られることの多い1年であった。総合センター全体で感染者が複数判明してリスクが高まった時期には、拡大防止のために生活介護3事業所を6日間休業とする対応を行った。

事業運営に関しては、第五期中期基本計画と連動するプロジェクトチームを編成し取り組みを進めた。①利用者を知るケース会議、②アセスメントの再考、③高齢化対策、④地域開拓推進の4つである。このプロジェクトは令和4年度も継続していく予定である。また、事業所内外での職員の相互協力体制の構築も意識して実施した。所属グループを超えた動き、リエゾン職員の応援なども試行した。福祉サービス第三者評価を受審した。

令和4年度は特別支援学校等を卒業して入所される方々が5名加わる予定である。この方々が1日も早くなじんでともに活動できるよう、丁寧な受け入れを行っていきたい。

2 利用者の状況と活動内容

(令和4年3月31日現在 単位：人)

(1) 利用者数 (定員40人)

	前年度末	入所	退所	年度末
男性	33	0	1	32
女性	14	0	2	12
合計	47	0	3	44

(2) 障害者総合法による障害支援区分の分布 (平均4.9)

区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	4	11	18	11

(3) 年間利用状況

延べ人数 年間合計 8,647名 (通所サービス日数 242日) 1日平均 35.7人

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
819	675	808	682	722	722	721	761	723	656	583	775

(4) 活動について

《基本活動》 5グループにより、メイン活動(織物、缶回収、地域活動、創作活動、健康など)とフリーデイ(個々のニーズに合わせた活動)を中心に活動を提供した。

《各種イベント等》 コロナ禍を考慮しつむぐとショップは休業した。販売機会も縮小した。むさしのあったかまつりは中止のため不参加となった。宿泊旅行はコロナ禍を考慮し中止

した。新年と成人を祝う会、春の日(終業の集い)を集合・オンライン併用で実施した。

(5) その他の活動

①保健・給食

- ・健康管理として、健康診断（2回） ※歯科検診、耳鼻科検診は行わなかった。
- ・給食について、利用者の状況に合わせた給食を提供した。
- ・職場内研修として、感染症予防研修と対応研修を行い実践した。

②防災（避難）訓練

利用者も参加する全館避難の実践訓練は行わず、山びこ、大地合同で、東日本大震災の教訓を通して、避難時の基礎知識等を学ぶ機会とした。

③家族関連

家族会はコロナ禍を考慮し開催を見送った。年度末の個別面談はコロナ禍を考慮し、途中から書面でのやりとりとした。その後、個別支援計画を作成、送付した。

④広報

山びこ広報紙「やーっ報」を年2回発行した。

⑤工賃の支給について

事業所の支給規定により毎月工賃計算を行い、半年ごと(年2回)全ての利用者に支給した。1年間の支払い総額は1,146,994円であった。

3 地域関連機関や団体との連携

(1) 実習の受け入れ、見学

- ・特別支援学校生徒6名
- ・社会福祉士実習生、特支等保護者・教員、他法人職員、福祉系大学生等

(2) 地域の方を招いての研修 大野田福祉の会で活躍されている方を講師に話し合い

(3) 創作活動系：クラウドファンディング、展示販売会、他事業所とのコラボ、市内学校文化祭での出品等を行った。

(4) 環境フェスタへのノベルティ提供、ラジオの公開収録、リサイクル素材の提供等

4 職員研修

①職場内部研修・3事業所合同研修

権利擁護虐待防止研修／情報セキュリティ研修／新入職者OJT／つむラボ／ケース検討会
音楽療法／感染症研修／てんかん基礎研修／居住との交流研修／新人勉強会 等

②法人研修

中堅層リーダー研修／2、3年目職員研修／実践発表会／施設長研修／係長研修
他事業所のケース会議等に研修目的で参加／高齢化研修 等

③外部研修

東京都障害者通所活動施設職員研修／強度行動障害支援者養成研修(基礎・実践)東京都社会福祉協議会主催研修／東京都社会福祉協議会福祉人材センター主催研修 等
他、施設長・副施設長が他法人等の研修で複数回講師を務めた。

5 苦情受付件数 0件

4 デイセンターふれあい

1 事業運営

今年度はご利用者23名から始まったが、4月に施設入所1名、5月と6月にグループホーム入所が1名ずつあり合計3名が退所した。現在20名の在籍になっている。

引き続き新型コロナウイルス感染症対策を看護師が中心になって施設内や送迎時の衛生・感染症対策を行い、外出活動・飲食活動を控える、手洗い消毒マスク着用の徹底、密を避けた環境設定等の対応を行いながら活動を継続している。外出が出来ない分として、リモートでの活動を積極的に取り入れている。令和4年度2月4日～11日まで障害者総合センター内の感染状況により、生活介護3事業所を6日間休業とした。

法人内生活介護事業所との連携の強化として、ワークセンター大地の男性支援員が排泄介助の支援に入ったり、リモート音楽プログラムや内部研修の共有などを行った。

プロジェクトとして、引き続き意思決定支援と創作活動を検討するDCF(創作活動)とに分かれて毎月ミーティングを行った。意思決定支援では、ケース支援会議と連動し個別の支援について検討する時に意思決定支援の視点を取り入れた。またDCFでは、法人全体の創作活動チーム「つむぐと」と連動しクラウドファンディングにも取り組んだ。領域別プログラムも、引き続き年間通して週1回継続して行った。高次脳機能障害と視覚障害の障害特性に合わせた小グループの活動を継続して行うことで、ご利用者がその活動を期待するようになり、自発的な動きが定着してきている。

医療的ケアについては、正規の支援員全員が喀痰吸引等の研修を受け、看護師と連携しながら支援を行っている。また医療的ケアに関する手続き(医師の指示書等)や要綱の改定を行った。

2 利用者の状況と支援内容

(令和4年3月31日現在 単位:人)

(1) 利用者数

	前年度末	入所	退所	年度末
男性	12	0	1	11
女性	11	0	2	9
合計	23	0	3	20

(2) 年齢別利用者数 平均年齢 35.3才

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男性	0	4	3	3	0	1	0	11
女性	0	1	2	1	3	2	0	9
合計	0	5	5	4	3	3	0	20

(3) 障害程度別利用者数

愛の手帳		1度	2度	3度	4度	手帳なし	計
身障手帳	1級	4	3	0	0	6	13
	2級	1	1	0	1	2	5
	3級	0	1	0	0	0	1
	4級以下	0	1	0	0	0	1
	手帳なし	0	0	0	0	0	0
計		5	6	0	1	8	20

*他に精神障害者保健福祉手帳の所持者あり。

(4) 障害者自立支援法による障害程度区分の数

区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	1	2	4	13

(5) 利用日数

週5日	週4日	週3日	週2日	週1日
14	2	3	0	1

(6) 営業時間

9時から受け入れ、16時終了(活動時間は10時から15:30)

(7) 通所方法

施設送迎 19人

(8) 年間利用状況

延べ人数 年間合計 3,259人 (通所サービス日数 242日)

1日平均13.5人

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
311	242	309	252	259	261	294	281	277	256	217	300

* 2月に在宅サービス(電話での状況確認) 57人込み

(9) 活動について

① 新型コロナウイルス感染症対策のため、宿泊旅行・外出・喫茶中止。

② リモートでの活動

リモート交流会	7月9日・7月29日(事業所対抗パラリンピック) 新宿あゆみの家、足立区綾瀬あかしあ福祉園、文京区若駒の里、わくらす
みゅうちゅある オンライン手話ソング発表会	12月15日みゅうちゅあるの手話ソング発表会に参加 大地・山びこ・わくらす
ムサシノザウルス オンラインワークショップ	2月9日吉祥寺美術館のワークショップに参加 大地・山びこ・わくらす
リモート音楽	毎月2回程度「ギロックフレンズ in 東京」の音楽を会議室で演奏して、オンラインで各活動室と繋ぐ方式で実施。年度途中より大地・山びこ・わくらす参加
動画体操	すばるの専門職が作成した軽体操や口腔体操を健康タイムの中で実施
リモート買物	コンビニエンスストアの商品を職員が動画で撮り、ご利用者に選択してもらい購入
医療的ケアが必要な ご利用者の活動室とのリモート活動	行事や月例会、bookbook こんにちは、皆さんで作る活動、リモート音楽などの活動時に活動室同士をつなぎ合同で参加

③ 作品展・販売等

マジエルカ	年間通して吉祥寺マジエルカにて販売。オンラインショップへも掲載販売。
ウェルフェアトレードフェスタ	6月26日～27日「つむぐと」合同、東小金井駅高架下
クラウドファンディング	7月1日～8月14日、7月28日に動画のライブ配信を行った
武蔵野アールブリュット2021	7月17日～21日吉祥寺美術館に作品を展示。
小さな輪っか展	12月15日 「つむぐと」合同、障害者総合センター入り口で展示販売

④ 工賃の支給について

作品の1年分の売り上げから材料費（30%）を控除した上で、作品制作に関わった利用者に配分金(工賃)として9月と4月に支給した。1年間の総額は282,632円であった。

⑤ 法人全体の創作活動チーム「つむぐと」と合同での展示販売の実施。

⑥ 季節行事

夏まつり、クリスマス会、新年会を、新型コロナウイルス感染症対策をしながら行った。

3 地域関連機関や団体との連携

- (1) 自立支援協議会当事者部会事務局、アールブリュット実行委員、高次脳機能障害関係連絡会の運営委員会に職員が参加。
- (2) 行事で彩色した大きな布の使い道をSNSで発信したところ、名古屋市や国立市の方やみゅうちゅある iki なまちかど保健室とつながり、みゅうちゅある iki なまちかど保健室とはコラボ商品の作成につながっている。
- (3) 市内のホリゾンインターナショナル株式会社が、創作活動への協力として卸価格で絵の具を提供してくれている。

4 職員研修

(1) プロジェクトチーム

DCF(創作活動)、意思決定支援のグループに分かれて実施

(2) ふれあい内部研修

意思決定支援勉強会、感染症対策研修、ケース検討会議、アートの基礎と創作ソール研修、革細工研修、織物研修、リスクマネジメント研修、リラクゼーション勉強会、医療用語研修、エピペン研修、発電機操作研修、情報セキュリティー研修、権利擁護研修

(3) 法人研修

新人職員研修、半年後研修、3年目研修、ファシリテーション研修、施設長研修、実践発表会、高齢者介護の基礎知識研修

(4) 外部研修

熱中症予防講習、初めて社会福祉を学ぶ福祉職員のためのスタートアップ研修、武蔵野市高次脳機能障害者関係機関連絡会、障害者支援施設への感染対策研修公開講座、東京都障害者虐待防止権利擁護研修、管理職のためのメンタルヘルス研修、移乗移動支援研修、0歳から高齢者の姿勢保持研修

5 苦情受付件数

2件

6 その他

(1) 保健・給食

① 機能訓練・理学療法士(週2回)の助言を受け、機能訓練の実施

② 健康管理・健康診断(2回)

③ 摂食・ペースト状特別食等、摂食しやすいような配慮

(2) 防災(避難)訓練

年2回実施

(3) 家族関連

1月に予定していた家族連絡会を12月1日に実施(参加者4名)新型コロナウイルス感染症で実施できなかった時は、家族連絡会ニュースを配布(年3回)

(4) 実習の受け入れ

特別支援学校生徒の実習の受け入れ、授業見学訪問
都立府中けやきの森学園肢体教育部門高等部 3年生1人
都立小平特別支援学校 3年生2人

(5) ボランティア受け入れ

新型コロナウイルス感染症対策のためボランティアの受け入れを中止し、定期的に担当よりボランティアに施設の状況をお伝えしている。

(6) 第三者評価

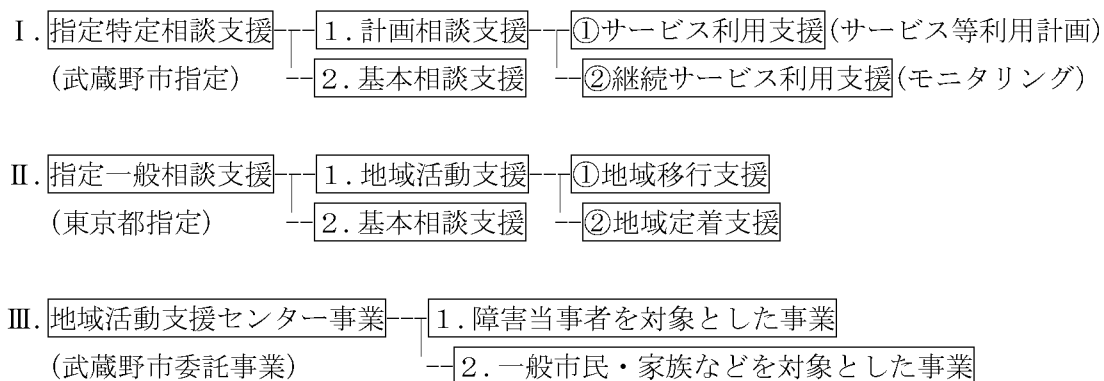
福祉サービス第三者評価を受審した。

5 地域活動支援センターびーと

1 事業運営

新型コロナウイルス感染症の状況を判断しながら、活動の維持、継続、休止などを判断してきた。可能な限り、感染の拡大防止策に取り組みながら、オンラインの活用等、新たな方向性も模索しながら取り組んでいる。

～びーと事業の体系～



2 利用者の状況と活動内容

(1) 相談支援事業

① 基本相談と指定相談（指定特定相談支援事業・指定一般相談支援事業）

令和2年度はびーと開設以来、初めて総相談支援件数が、前年度を下回った。令和3年度は前年度比4.08%の増、一昨年度比でも3.29%の増となり、コロナ前の水準に戻っている。

② 相談受付総数と内訳

総相談受付件数：16,772件（年間合計） 実質的相談件数：698人（年間合計）

新規相談者件数：89人（年間合計） ※内継続して支援している人は20人

新規計画相談者件数：17人（年間合計）

相談区分	身体	重心	知的	精神	発達	高次脳	重複	他	合計
一般相談	270	13	2,141	461	193	1	444	227	3,750
計画相談	498	42	2,794	45	21	0	131	5	3,536
ピアカウンセリング	2	0	5	0	0	0	0	0	7
専門機関	1,165	105	5,547	264	185	4	660	1,470	9,400
時間外対応	0	0	30	9	6	0	2	32	79
合計	1,935	160	10,517	779	405	5	1,237	1,734	16,772

※総件数が昨年度比の約4.08%の増（昨年度は約0.76%の減、一昨年は約1.3%の増）

③ 相談者内訳

NO	区 分	件数	割合(%)	NO	区 分	件数	割合(%)
1	本人からの相談	4,345	25.9	6	親戚からの相談	38	0.2
2	父母からの相談	2,543	15.2	7	関係機関との連携	9,467	56.4
3	配偶者からの相談	3	0.02	8	知人・友人からの相談	13	0.08
4	子からの相談	0	0	9	一般市民の相談	49	0.3
5	兄弟からの相談	297	1.8	10	その他(匿名者他)	17	0.1

※昨年度と比較して、本人からの相談が約1.8%減、関係機関との連携が約1.6%増加。

びーと相談支援の大きな特徴である本人からの相談は割合が減となったが、関係機関との連携は増加した。これは概ね昨年度と同様の状況となっている。

(2) 地域活動支援センター事業

総合計7,759人(単位:人)

区分	動画 配信	道場・ 上映会	ダンス 倶楽部	PC 教室	びあ クラブ	くらし 体験塾	手芸 教室	男子会	当事者 学習会
人数	106	496	339	567	76	106	335	68	59
区分	あった か祭り	公開セ ミナー	見学 対応	サポー ター	市民 向け	大野田 福祉会	地域 連携	他団体 支援	その他
人数	72	275	23	33	2,992	55	1,545	327	280

※昨年度と比較し9.79%の減。新型コロナウイルス感染症の影響により、地活事業のプログラム参加者数は、人数制限などを受けて少なくなっている。

【活動内容】

☆新型コロナウイルス感染症対策により、飲食を伴う活動等は休止し、更に密を避けながら、小グループ制を導入するなどの配慮の上、開催した。

○動画配信…「びーとちゃんねる」と名付け、登録者に向けた生活情報などを動画で配信

○道場・上映会…創作活動やビデオ上映などにより、参加者同士の交流をはかる機会

○ダンス倶楽部…障害者スポーツ指導員を講師に迎え、ダンスに楽しく取り組む機会

○パソコン(PC)教室…パソコンの初歩的な学習教室。個別とグループの両方で実施

○びあクラブ…人との接触を少なくした個別的な設定で創作活動中心に土曜日に開催

○くらし体験塾…身近な生活テーマを取上げ体験を通して生活力をつける自立体験活動

○手芸教室…思い思いの作品作りに挑戦する趣味活動

○男子会…男性登録者に限定し、共通した趣味の話題などで交流をはかる活動

○当事者学習会…サマーセミナーと称して生活力を向上させる当事者対象の生活学習会

○あったか祭り…利用者有志で企画などを話し合い、出し物を作り上げる経験とする機会

○公開セミナー…知的障害者の高齢化をテーマに、精神科医の講演をリモートで開催

○見学対応…利用に向けた検討の一環や学習のための施設見学等に対応

○サポータークラブ…一般市民などにびーと活動にボランティアの参加を呼びかけ

- 市民向け活動…フリースペースの運営や福祉情報の提供など一般市民向け事業
- 大野田福祉の会…総合センター地区の福祉の会への参加・応援活動
- 地域連携…地域関係の団体等との連携
- 他団体支援…市民の会や当事者の集まりなどに対する協力
- その他…地域活動支援事業全般に対する問い合わせや単発の相談など

<感染症対策のため、活動再開を見合わせた活動> (順不同で記載)

- わくきん…「わくわく金曜広場」と利用者が命名。金曜日の夜に集まる当事者の集い
- みんなのキッチン…調理体験と会食を通して参加者同士の交流を促進
- あったかまつり…あったか祭りの開催中止を受けて、有志の当日参加は実現しなかった。
- 集まろう会… 一般企業等就労者対象の当事者活動
- 北町食育くらぶ…季節の行事を題材に、食をテーマにした学びの機会を提供する活動

(3) 月別の相談・来所者集計

月別の平均来館者数について

上記活動支援センター事業関係の1日当たりの月別平均来館者数

(地域活動支援センターI型のびーとは、1日当たりの来館者数20人以上が目安)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	18.3	17.3	22.3	22.2	24.5	23.0	21.2	22.3	27.0	26.3	17.0	19.6

※相談や地活プログラムでの来所者総数来館者数対応件数と月の稼働日で算出

3 地域関連機関や団体との連携

(1) 市地域自立支援協議会

自立支援協議会の「親会議」委員として、相談支援事業所の代表者区分で施設長が出席。

会長からの指名を受けて、副会長の職を担っている。合わせて、地域生活支援拠点部会の担当委員として部会活動にも参加した。

また、コロナ対応部会、地域移行部会、差別解消部会、地域生活支援拠点部会にびーと職員を各部会に1名ずつ派遣。今回の任期は、令和3年度と4年度の2年任期となっている。

(2) 市民・関係機関支援者等向け及び、当事者に向けた公開セミナー（学習会企画）

○市民・関係機関支援者等向け公開セミナー

開催日：令和4年1月19日（水） 午前10時30分から午後12時30分 生配信

令和4年1月26日（水） 午前9時から28日（金）午後6時まで

録画したものをYouTubeで配信

テーマ：「知的障害のある方の高齢化について考える」

講師：有賀道生医師（桐の木クリニック院長、精神科医）

内容：・知的障害のある方の高齢化の状況等をデータで解説

・健康問題、認知症の行動・心理状況、強度行動障害の状態にある方の特性と違いについて説明

・健康な暮らしの基本である「安全」「安心」の保障のための支援者の取り組み

・当事者や家族の思い、現場の思いなどを紹介

参加者：生配信28名、録画配信185名

○当事者向けサマーセミナー（学習会）

開催日：令和3年8月28日（土）午後1時半～午後3時

テーマ：「こころがラクになるきもちのととのえかた！」

講師：武内典恵氏（NPO法人アピユイ理事長、言語聴覚士）

内容：自分なりの方法で心をコントロールしながら、充実した毎日を過ごしていくために、自分で気持ちを整える方法を練習しながら体験した。

会場：武蔵野障害者総合センター（感染対策に配慮し、定員を設けて開催）

参加者：びーと登録者15名

4 職員研修（主なものを抜粋して記載）

区分	開催研修テーマ	概要やテーマ等	主催
相談支援	相談支援従事者研修	相談支援員専門員初任者研修	東京都福祉保健局
	相談支援従事者研修	相談支援員専門員現任者研修	東京都福祉保健局
	成年後見制度市民講演会	遺産・相続入門研修	市成年後見利用支援センター
	精神保健福祉研修	相談・支援力UP研修	多摩精神保健福祉センター
専門分野	強度行動障害支援者養成研修	強度行動障害基礎研修	東京都保健福祉財団
	虐待防止・権利擁護研修	社会福祉従事者人権研修Ⅰ・Ⅱ	東京都福祉保健局
	認知症支援研修	医療・心理・実践アプローチ	地域包括ケア人材育成センター
	障害者就労支援学習会	コロナ禍における就労支援	武蔵野市就労支援ネットワーク
知識	保健予防講習会	熱中症予防講演会	武蔵野市健康福祉部
	精神保健福祉研修	精神保健福祉基礎研修Ⅰ	多摩精神保健福祉センター
	精神保健福祉研修	大人の発達障害	多摩精神保健福祉センター
	武蔵野市人材育成研修	アンガーマネジメント研修	地域包括ケア人材育成センター
運営	相談支援事業所報酬研修	報酬改定と請求事務	東京都相談支援ネットワーク
	BCP作成講座	福祉事業者向けBCP学習会	東京ガス
	不当行為等対策講習会	不当行為に対する対応方法	武蔵野市
	市民部政策研修	公務員向け優しい日本語講座	武蔵野市市民部

※上記の他に法人職員研修や事業所内の支援会議などを通じて、職員の専門性向上をはかった。

5 苦情受付件数

0件

6 ワークセンターけやき

1 事業運営

事業理念「仕事を通してつながりをひろげ、自分らしく成長していく」に基づき、雇用契約を結んで仕事をしたい方から、社会人としてのマナーや働く習慣を身につけたい方まで、幅広い就労ニーズに応えるべく、より上質な就労機会の確保と個別支援の充実を軸に事業運営を行った。

新型コロナウイルス感染症の対策として、利用者・職員の健康管理や器具消毒等を徹底して行った。また食品事業においては令和2年度に引き続き、地域のお客様に安心してご利用いただくための店舗づくりや、売上向上のための商品開発などの工夫に取り組んだ。

(1) 就労継続支援A型（定員 10名）

働く力を有しながらも企業就労の機会が得られない方に対して、印刷部門および食堂部門（市役所8階さくらごはん）で雇用契約を結び、合理的配慮に基づいた労働環境を提供した。

(2) 就労継続支援B型（定員 30名）

封入等軽作業や天然酵母パンの製造、販売、喫茶パールブーケの運営を行い、合理的配慮に基づいた作業環境を提供した。

2 利用者の状況と支援内容

（令和4年3月31日現在 単位：人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	21	18	22	20	21	20	21	20	20	19	18	22	242
A型(回)	70	48	59	52	51	45	56	64	69	65	58	75	712
B型(回)	591	496	599	515	516	517	566	553	553	505	420	568	6,399
計(回)	661	544	658	567	567	562	622	617	622	570	478	643	7,111

(1) サービス利用契約の状況

利用開始3名（新卒2、中途1）、終了1名（就職1）により、2名増（37名）となった。

(2) サービス提供時間

① 就労継続支援A型 … 9:00～16:00、週5日の勤務時間内で、精神障害のある方の短時間雇用も含み、利用者に応じて柔軟に設定した。

② 就労継続支援B型 … 8:00～16:00の作業時間内で、利用者に応じて柔軟に設定した。

(3) 就労支援事業について

① 印刷・サイン（就労継続A型） 38,162,063円

② 封入等軽作業（就労継続B型） 17,700,809円（うち図書館委託業務 3,780,040円）

③ 喫茶ベーカリー（就労継続B型） 23,426,631円

④ 食堂（就労継続A型） 10,662,970円 合計 89,952,173円

前年度比は①+16.4%、②△5.6%、③+16.3%、④+17.6%、全体+11.4%で、新型コロナウイルスの影響で売上が激減した食品部門（③、④）についても、徐々に回復をしている。

③については店頭販売や受注納品もあるため、コロナ禍前の令和元年度比90%台まで回復し、今後の売上向上も見込むことができている。一方、④についてはランチタイムのイートインにほぼ限定されるため、コロナ禍前の令和元年度比50%台で回復が停滞している。

(4) 就職支援・定着支援における取り組み

就労継続支援A型より1名が就職し、関係機関と連携して定着状況の確認を行った。

(5) 個別支援

半期毎（年2回）に利用者個別面談を行い、モニタリングと個別支援計画の策定を行った。

(6) 余暇活動支援

年末営業最終日に利用者交流会（希望者のみ）を実施した。

(7) 学習活動支援

「働くうえでの好ましいコミュニケーション」をテーマにグループ学習活動を行った。また個別ニーズに応じて、ジョブアシストいんくるの就活プログラムへのビジター参加枠を設けた。

(8) 保健衛生

定期健康診断、内科検診等を実施した。

3 地域関連機関や団体との連携

恒例行事であったベーカリー部門の外販イベント（桜まつり、青空市、NTT武蔵野開発研究センター、高齢者施設等）は、新型コロナウイルス感染症の影響でほとんどが中止となった。NTT武蔵野開発研究センターについては、先方のご厚意により受注販売のみ実施し、イベント再開に備え関係性の維持に努めた。また、フードパントリー事業（武蔵野市民社会福祉協議会）への寄贈企業からベーカリー部門に、焼き菓子等の大口注文があった。

「武蔵野市暮らし地域応援券」（第2弾）に、パールブーケ、カフェ・ル・ブレ、さくらごはんの3店舗が参加し、地域住民の方に多数ご利用いただいた。

4 職員研修

(1) 事業所内全体研修（シフト勤務の職員がいるため、同内容で複数回実施）

① 6/22(火)、23(水) 法人基本理念、権利擁護規程、令和2年度決算報告、障害特性理解等

② 11/15(月)、11/25(木)、12/9(木) 感染症対策・嘔吐物処理

(2) 法人就労支援領域合同研修（けやき、いんくる、武蔵野福祉作業所、りぷる）

暮らしとお金から支援連携を考える（2/4(金)～2/28(金) オンライン配信）

(3) 個別研修

全社協 社会福祉施設長資格認定講習通信課程（1名）、サービス管理責任者基礎研修（1名）、東社協 福祉職員キャリアパス対応生涯研修 初任者研修（2名）、都立多摩総合精神保健福祉センター 精神保健福祉研修（2名）、東京都障害者通所活動施設職員研修会（1名）、他

5 苦情受付件数

0件

6 その他

(1) 利用者・家族向け広報「けやきだより」発行（年3回）

(2) 防災訓練実施（年2回）

(3) 福祉サービス第三者評価 受審

7 ジョブアシストいんくる

1 事業運営

ジョブアシストいんくるは、就職を志す障害のある人を支え、企業就労を実現し、継続するための支援を行ってきた。新型コロナウイルス感染症拡大防止のための緊急事態宣言やまん延防止等重点措置発令の中でも、感染対策に留意しながら従前通りの活動を継続することができた。一方、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症による求人数の減少で、新規就職者の数も減少するなど、少なからずコロナ禍の影響を受けることとなった。

2 利用者の状況と活動（支援）内容（令和4年3月31日現在の実績数）

(1) 就労移行支援

① 利用者の状況

令和3年度末登録者数（直Bアセスメント利用者3名を除く）（単位：人）

事業名（定員）	令和2年度末	新規利用開始	年度内利用終了	令和3年度末
就労移行（20）	18	19	15 （内8名就職）	22

年齢別利用者数（平均年齢34.0歳） 利用終了時もしくは年度末時点（単位：人）

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	65歳以上	合計
男性	0	12	11	4	3	0	0	30
女性	0	4	0	2	1	0	0	7
合計	0	16	11	6	4	0	0	37

障害・度数別利用者数 利用終了時もしくは年度末時点（単位：人）

級/度	身体	知的	精神	なし	計
1	1	0	0	/	/
2	1	0	10		
3	0	2	12		
4	0	11	/		
5	0	/			
6	0				
なし	/	/	/		
計	2	13	22	0	37

- 令和3年度の1年間で19人が新たに利用を開始している。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置として緊急事態宣言が発出されたことにより、年度当初から約2カ月余り新規ご利用希望の方に向けた見学や体験を中止したため、利用者が減ったが、コロナ前の水準まで回復した。例年同様、新規ご利用者の多くは、各地域の就労支援センターや相談支援事業所などの関係機関から紹介を受けている。
- 平均利用者数は16.0人と昨年度（16.7人）と比べて減少している。これは、精神障害のある方のご利用が増えたことにより、週3日利用が増加したためである。

- 令和3年度利用者は累計で37名になり、平均年齢は34.0歳であった(利用終了時、年度末に利用継続の場合は年度末時点で)。
- 昨年度と比べ、精神保健福祉手帳所持者が22名で6割を占めた。また、発達障害の診断もしくは傾向のある方が27名に達し、全体の7割を超えた。

② 就職者の状況

令和3年度 就職者の状況

(単位：人)

手帳種別	人数	業務内容	人数	就業場所	人数
精神	4	事務系	0	市内近隣	3
知的	4	事務補助系	4	都心部	2
身体	0	作業系	2	多摩地域	2
なし	0	店舗系	0	区部西部	1
計	8	厨房系	0		
		清掃系	2	計	7
		計	8		

(うち発達障害は6名)

- 令和3年度は8名が企業等に就職した。
- 手帳種別では愛の手帳所持者が4名、精神保健福祉手帳所持者が4名。また、全体のうち6名が発達障害の診断、もしくは傾向があると言われている方である。
- 就職先の業務内容は事務系(事務補助含む)が4名、作業系(清掃・店舗運営など)が4名
- 就業地域は武蔵野三鷹地域が3名、多摩地区が2名、23区が3名となっている。
- 今年度就職者の就職先は以下の通り。
 (株)サカイ・ヘルスケア、ブリヂストンチャレンジド(株)、(一社)練馬区医師会、パーソルサンクス(株)、(株)佐藤総研、(株)パークコーポレーション、武蔵野市役所、(株)ジャパネットホールディングス
- 開設以来(8年10カ月)では85人が就職し、のべ27人が離職に至っている。

③ 活動内容

就労トレーニング・就活プログラム・パーソナルアシストを個人別利用カリキュラムにより実施した。また、個別に選択や組み合わせのアレンジを行うにあたり、利用者の理解を助けるために、個別面談やプログラム見学などを行った。

- 就労トレーニング(作業)
 - ・「封入等作業」を基本作業としつつも、適性に合わせて幅広い作業種に携わる機会を関係機関と連携して提供した。(主な作業内容：封入封緘作業、清掃業務、図書館受託作業、厨房調理補助作業)
 - ・企業体験実習：民間企業の協力で職場の見学・体験など施設外支援を多数実施した。また、東京しごと財団や東京労働局主催の企業体験実習も積極的に利用し、企業実習の機会を数多く提供した。
- 就活プログラム
 - ビジネススキルアップ(ビジネスマナー)、パソコン講座、オフィスワーク(事務スキル)、メモのとり方、セルフラーニング(自習機会)など就職活動に必要な知識、技術獲得の機会や、グループワーク、JSTなど利用者同士でのコミュニケーションスキルの向上を図る機会を幅広い利用者層に合わせて多層的に設定し実施した。
- 就職準備(企業就労への支援)
 - ・履歴書作成や面接訓練などを、原則個別対応できめ細かく実施し効果を上げた。

・求職活動や就職面接、実習、トライアル雇用に同行し、就職活動を支援した。

④ 活動時間

月曜日から金曜日、8:30～17:00 の間で、各人の状況やプログラムの選択に合わせて柔軟な時間設定と利用日でカリキュラムを作成した。

⑤ 利用契約と個別支援計画

利用契約を結び、個別面談を月 2 回以上実施し、本人の意向に沿って個別支援計画を策定し、3 か月ごとにモニタリングを行った。

⑥ 訓練手当について

就職に向けてのプログラムとしての意義から、作業実習に関わる時間については、東京都最低賃金の 3 分の 1 相当額を訓練手当として支給した。(年間平均で時間あたり 340 円を支給)

⑦ 就職後の定着支援

就職者については、半年を目安に定期訪問や面談などの定着支援を行った後、就労定着支援事業(後述(2))の利用か各地域の就労支援センターへの移管を就職者に選択していただいた。

(2) 就労定着支援事業

① 利用者の状況

令和 3 年度末登録者数

(単位：人)

事業名	令和 2 年度末	新規利用開始	年度内利用終了	令和 3 年度末
就労定着	23	4	8	19

- 就職後 6 ヶ月を経過しての登録になるため、順次契約を進め、4 名が新規利用開始となった。
- 年度内終了者は 8 名。うち 6 名は就職から 3 年 6 ヶ月が経過し、サービス利用期限満了を迎えた方である。終了後は住所地にある就労支援センター等関係機関に定着支援を引き継いでいる。

② 支援内容

- 毎月最低 1 回は就職者の方との面談を実施するのを基本に、必要に応じて職場訪問や通院同行、関係機関との連絡調整などを実施し、企業就労の継続を図った。
- 令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、対面での面談の他、オンラインによる面談の機会が飛躍的に増加した。
- 例年実施していた就職者同士の交流機会である「就職者の会」は、新型コロナウイルス感染症の影響で、令和 3 年度は実施を見送った。

(3) 生活困窮者就労準備支援事業・被保護者就労準備支援事業

① 利用者の状況

事業名	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
生活困窮者・被保護者就労準備	9	9	6	9

令和 3 年度は、例年と同じく疾病等により離職し、就職活動のサポートが必要となったケースの他、新型コロナウイルス感染症の影響で就労日数・時間が減少したことにより、経済的に困窮されるケースもあった。

② 活動内容

従来から行っている「就活カフェ」や個別の相談による支援を中心にしながらも、継続的にコミュニケーションプログラムや PC 講座、軽作業練習などのプログラムに参加する方も増えてきている。

3 地域関連機関や団体との連携

就労移行・就労定着支援事業では利用者居住自治体の障害者福祉課や計画相談事業所、市区町村就労支援センター、生活困窮者・被保護者就労準備支援事業では武蔵野市生活福祉課や武蔵野市福祉公社と緊密に連携して支援を進めている。その他の支援機関は以下の通り。

(1) 就労支援関連機関

① ハローワーク

- 管轄のハローワーク三鷹は利用者の求職登録をはじめ、面接会等新規求人情報の共有や障害者委託訓練の申込など、利用者の就職活動に必要な連携を実施している。
- 生活困窮者就労準備支援事業においては、自立支援調整会議等でのケースカンファレンスを通じて支援状況を共有し、支援上の役割分担をするなど必要な連携をしている。

② 東京障害者職業センター

就職者の職場適応を支援するジョブコーチの派遣等を通じ、支援の進め方などを協議しながら協働で支援を進めている。

(2) その他関係機関

・吉祥寺北コミセン

運営委員の方からお声がけいただき、昨年末利用者と職員総勢8名でコミセンの大掃除に参加し、駐車場や建物周辺の落ち葉掃きを実施した。今後も連携の機会を持てるようにやり取りを続けていく。

4 職員研修

就労支援をはじめ、支援技術全般の向上のため、以下の研修に職員を派遣した。

- 就業支援基礎研修
- 職場適応援助者支援スキル向上研修
- 生活困窮者支援事業実施者向け研修 他

5 苦情受付件数

1件

8 武蔵野市障害者就労支援センターあいる

1 事業運営

武蔵野市障害者就労支援センターは、「武蔵野市障害者等就労支援事業実施要綱」に基づき、障害者及び障害児（以下「障害者等」という）が安心して働き続けることができるよう、身近な地域においてその就労面及び生活面の支援を一体的に提供することにより、障害者等の一般就労の促進を図り、以って障害者等の自立及び社会参加の一層の促進を資することを目的に事業を実施している。開所から15年が経過し、登録者は380名を超え、相談に来られる方の障害とニーズの多様化が進んでいる。また、新型コロナウイルス感染症をきっかけに、障害者雇用を取り巻く状況は大きく変化しつつある。これらに対応すべく、令和3年度は様々な工夫をしながら事業に取り組んだが、支援ネットワークの拡充や地域雇用主への雇用促進の働きかけなど、今後も更なる取り組みが必要である。

2 利用者の状況と支援内容（令和4年3月31日現在の実績数）

(1) 登録者の状況

① 登録者全体の状況（全392名の内訳）

手帳別人数		年代別人数		状況別人数	
手帳種別	人数	年代別	人数	状況	人数
身体障害	29	18～20歳	18	在職	256
知的障害	138	21～29歳	88	求職(在宅)	38
精神障害	208	30～39歳	92	求職(施設)	59
なし	17	40～49歳	112	その他	39
計	392	50～59歳	58	計	392
		60歳以上	24		
		計	392		

- 精神障害者福祉手帳所持者が登録者の53%、発達障害のある方は57名で登録者の約15%となっている。
- 40歳以上の登録者が約半数で、登録者の約20%は50歳以上である。
- 登録者の約65%が在職者である。求職者（在宅）の方は10%だが、積極的な就職活動を展開している人の割合はさらに少ない。

② 新規登録者の状況

- 新規登録者数は36名で昨年度並み。手帳種別では精神障害者保健福祉手帳が21名で最多だが、手帳無しの方も8名と例年より多くなっている。
- 状況別では13名が在職中であり、うち3名は就労移行支援事業所からの定着支援引継ぎのための登録である。

(2) 新規就職者の状況

- 新規就職者数は 26 名で昨年度並みだが、例年と比較すると低調である。就労移行支援事業所等からの就労者である未登録の方が増加しているのが背景にあると思われる。
- 手帳種別では精神障害者保健福祉手帳が約 65%を占める。

(3) 離職者の状況

- 離職件数は 14 件。昨年度と比べやや減少。
- 手帳種別では精神障害者保健福祉手帳所持者が多く、退職理由は自己都合によるものが多い。転職は 3 名、新型コロナウイルス感染症による勤務先の業績不振を要因とする離職者は 2 名。

(4) 支援の状況

① 支援全般について

<支援内容別件数>	合計(件)
職業相談（就労全般）	4,983
就職準備支援（適性、能力の把握、就労意欲や職業能力の向上等）	260
職場開拓件数（独自の職場開拓）	8
職場実習（通勤援助、職務分析等）	83
職場定着支援	372
離職支援（諸手続き、調整等）	20
通院同行	21
家庭訪問	10
合 計	5,757

- 職業相談件数が昨年度に比べ増加している。特に電話での相談が増えている。
- 職場定着支援件数は昨年度と比べ増加傾向。多くの企業にて定着支援の受入を再開している。オンラインでのリモート面談件数は昨年度並み

② 余暇支援

- 登録者の交流を目的とした茶話会はコロナ禍で中止していたが、令和 3 年 10 月から再開した。会場が密にならないよう、武蔵野プレイス内会議室スペースを借り、人数を制限して実施した。
- 一昨年度より開催を見送っている登録者交流会に代わる企画として、登録者報告集「あいる登録者作品～玉手箱～」を作成し、登録者に配布した。登録者報告集は登録者有志の協力により、登録者が思い思いに作文や作品などを寄せた読み物で、コロナ禍においてもつながりを感じてもらえるようにと企画したものである。

3 地域関連機関や団体との連携

(1) 市内就労移行支援事業所等との連携体制の強化

今年度は、以下内容で武蔵野市障害者就労支援ネットワーク学習会を計3回開催した。

① 第1回

- テーマ：コロナ禍における障害者雇用企業の現状を俯瞰する～SACEC のアンケートから知る約8,200名の現状～
- 内容：新型コロナウイルス感染症が障害者雇用にどのような影響（職場環境、障害者雇用に対する意識面での変化、新しい業務の獲得等）を与えたか、一般社団法人障害者雇用企業支援協会(SACEC)が企業を対象として実施したアンケートの結果から学び、共有する。講義形式
- 日時：11月10日（水）18:30～20:00
- 場所：武蔵野スイングビル10F スカイルーム
- 講師：一般社団法人障害者雇用企業支援協会(SACEC)常務理事 石崎雅人氏
- 参加者：24名。市内就労支援事業所職員、学校関係者、障害者福祉課職員、企業担当者等

② 第2回

- テーマ：企業の取り組みから学ぶ～定着率100%を維持する職場づくりと広がるテレワークの可能性～
- 内容：障害者雇用企業におけるダイバーシティとインクルージョンとはどのようにあるべきか。職場定着率100%を維持している企業での障害者雇用における具体的な取り組みを知ること、支援者が今後関わる企業への提案や情報発信の力を向上していくことにつなげていく。講義形式
- 日時：12月10日（金）18:30～20:00
- 場所：武蔵野スイングビル10F スカイルーム
- 講師：サントリービジネスシステム株式会社コラボレイティブセンター課長 平岡典子氏
- 参加者：30名 市内就労支援事業所職員、学校関係者、障害者福祉課職員

③ 第3回

- テーマ：訪問看護事業所の実践から、生活支援の視点と効果的な連携の在り方を学ぶ
- 内容：精神・発達障害のある方の雇用について企業での取り組みが進む中、就労継続のために、就労支援事業所にはどのような連携が必要か、訪問看護事業所における支援事例から生活支援の視点を学び、就労支援員と生活支援事業所との連携の促進につなげていく。オンライン形式
- 日時：3月23日（水）18:30～20:00
- 講師：合同会社奏の杜 代表 小椋結子氏
訪問看護ステーションかのん 管理者 橋本健氏
- 参加者：30名 市内就労支援事業所職員、学校関係者、障害者福祉課職員

(2) 武蔵野市役所障害者庁舎内実習

- 今年度は第1期の庁舎内実習を令和3年10月18日(月)～10月29日(金)の2週間、第2期を令和4年2月7日(月)～2月18日(金)で実施した。
- 実習生の公募は例年通り、あいる及び市内就労移行支援事業所等に向けて行い、第1期、第2期とも定員を超える応募があった。あいる職員が事前に実習内容の説明、配慮事項等の聞き取りを行った上で、障害者福祉課、人事課の担当者による選考を実施し、参加者を決定した。
- 2期を通じ、計20課で実習を受け入れた。受入れ数は例年並み。

(3) 武蔵野市、三鷹市、ハローワーク三鷹共催「障がい者の就労を考えるつどい」

障害者雇用の理解促進と啓発を目的に、年1回、武蔵野市、三鷹市、ハローワーク三鷹による合同開催で実施している。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、開催を見送ったが、今年度は以下の通り、オンデマンド配信形式で実施した。

- テーマ：コロナ禍の障がい者雇用 ー変わったこと、変わらないことー
- 内容：ハローワークによる行政報告、企業2社の取り組みから、新型コロナウイルス感染症が障害者雇用情勢や雇用現場に与えた影響と、コロナ禍の経験を通じて得た学びなどについて参加者と共有を図る。
- 講師：ハローワーク三鷹 統括職業指導官 佐藤永規氏(行政報告) / SUBARU テクノ株式会社 岡安功太郎氏、ソランピュア株式会社 清水直輝氏(企業実践報告)
- 配信期間：令和3年11月22日(月)～12月22日(水) 総再生回数343回
- 視聴申込実績：企業関係者19名 / 福祉関係者22名 / 医療関係者4名 / 学校関係者(生徒・保護者含む)24名 / その他34名 / 行政機関職員・関係者29名

(4) 多摩地域障害者就労支援事業所連絡会

昨年度よりあいるが幹事市センターとして加わった。多摩地域の区市町村センターが抱えている課題について検討する情報共有機会の確保、学習会の企画等が主な役割。今年度は連絡会のうちの1回を羽村市障害者就労支援センターと企画し、「コロナ禍における就労支援センターの支援について」というテーマで、就労支援センターと東京都福祉保健局、産業労働局の担当者とコロナ禍における就労支援センターの現状共有を実施した。

4 職員研修

(1) 事例検討会

帝京大学元永教授をスーパーバイザーに招き、事例検討会を全5回実施。就労面だけでなく、生活面、家族関係、貧困の問題など複合的な問題を抱えるケースが増加する中、職員間の意見交換とスーパーバイザーからの具体的な助言を元に学びを深めた。

(2) 外部研修

19件参加。昨年並み。昨年同様オンライン研修の開催が増え、所内にいながら研修を受けられる機会が増えている。

9 武蔵野福祉作業所

1 事業運営

昨年度に引き続き、今年度も感染症対策として、①作業場以外の場所も活用して利用者を分散させる、②休憩時間を細分化して利用者同士の接触時間を減らす、③利用者と感染症に関する研修会を実施する、などの取り組みを継続した。また、集団での行事を中止、または感染対策を取り入れた実施方法に変更する等、感染拡大防止を図った。

利用者の推移としては、新規入所者はなく利用者 81 名の在籍で始まり、途中で退所者が 3 名、年度末時点で 78 名の在籍となった。年齢の分布をみると 65 歳以上の利用者が 7 名となり、内 70 歳以上が 6 名となった。平均年齢も 40.1 歳と高くなっている。高齢利用者の介護保険サービスへの適切な時期での移行を進めるために、これまで以上に関係機関との連携を進めた。

2 利用者の状況と活動内容

(1) 利用者数

(令和 4 年 3 月 31 日現在 単位：人)

事業別（定員）	前年度末	入所	事業間異動 での増減	退所	今年度末
就労移行（6）	0	0	0	0	0
就労継続 B（64）	69	0	0	2	67
生活介護（10）	12	0	0	1	11
計	81	0	0	3	78

(2) 年齢別利用者数（平均年齢 40.1 歳）

(令和 4 年 3 月 31 日現在 単位：人)

	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳 以上	合計
男性	0	13	16	10	8	2	2	51
女性	0	8	5	7	3	1	3	27
合計	0	21	21	17	11	3	5	78

(3) 障害者自立支援法による障害支援区分の数

(令和 4 年 3 月 31 日現在 単位：人)

未確定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
21	0	8	25	18	6	0	78

(4) 障害・度数別利用者数

(令和4年3月31日現在 単位：人)

		愛の手帳					精神手帳			合計
		1度	2度	3度	4度	なし	1級	2級	3級	
身障手帳	1級	0	2	0	1	1	0	0	1	5
	2級	0	1	1	0	2	0	0	0	4
	3級	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	4級以下	0	0	2	0	1	0	0	0	3
	なし	0	26	34	4	0	0	1	0	65
合計		0	29	38	5	4	0	1	1	78

(5) 活動時間

基本的な活動時間は9:00開始、16:00を基準に前後15分の中で終了とし、時間構成は4コマで、午前と午後の15分休憩と昼休みを設定した。

(6) グループワークプログラム

少人数グループプログラム「WG夢の扉（健康体操）」「WGつながる（ビデオレター作成）」「ワークショップ（表現活動）」を実施した。

(7) 作業活動と工賃

就労収入は感染症の影響からの回復が見られ、前年度比111%となった。未だ完全回復までには至っていないが、弁当販売や自主製品の制作販売などの新たな取り組みも実ってきている。工賃支給実績（多機能合計の月平均）は、令和2年度10,890円に対し13,150円となった。工賃評価を10月に実施した。

【売上実績表】

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R2合計	2,001	1,134	3,376	3,408	2,889	3,427	3,685	3,752	3,755	2,688	2,974	3,769	36,857
R3合計	3,488	2,940	3,938	3,644	3,137	3,481	3,815	3,670	3,657	2,775	2,774	3,574	40,893

(8) 年間行事

- ・バスハイク、一泊旅行、クラブ活動は、感染症拡大のため中止とした。
- ・新年会を実施した。

日 時：令和4年1月4日(火) 10時45分～12時30分 (12時40分)

出席者：利用者 71名 ・職員 20名 計 91名

内 容：感染対策を行った上で少人数グループ毎に実施。新成人のお祝い、夢の扉発表(VTR)、書初め、会食等

- ・研修会（利用者）を2回実施。感染症や対人関係に関する研修を実施した。

(9) 自治会

今年度は活動を休止し、役員選挙を行わず前年度役員が継続する形となった。6名からなる役員会を中心に本人活動の支援を行った。

3 地域関連機関や団体との連携

(1) 市立大野田小学校への学習協力

9月30日（木）4年生の「総合的な学習の時間」でのオンライン授業

(2) 成蹊大学理工学部システムデザイン科との福学協働の取り組み

「プロジェクト実習」への協力（オンライン授業・研究へのフィードバック等）

(3) やさい食堂七福と武蔵野市健康づくり事業団との連携

レストランメニューに関する管理栄養士によるコメント掲載

(4) 子ども育成課「安全衛生推進事業」での講義及びメニューの提案・提供の協力

4 職員研修

内部研修として、医務研修（2回）、権利擁護研修、就労支援研修、情報セキュリティ研修を実施した。外部のオンライン研修等へ職員を派遣し、参加者は職員に研修内容を講義し共有を図った。

5 苦情受付件数

2件

6 その他

(1) 保護者連絡会

例年5月、9月、3月の年3回を原則として施設より利用者家族に向けた情報伝達の場を設けているが、今年度は感染拡大防止のため中止し、書面での報告とした。

(2) 広報紙

利用者向け広報紙「むさしのだより」を毎月発行した。

(3) 保健衛生

看護師による日常看護としての利用者の健康管理と嘱託医（内科・精神科）による健康相談を毎月5回、健康診断、歯科検診（希望者のみ）を実施した。また、感染症対策、緊急医療対応シミュレーション研修を行った。

(4) 給食

法人の栄養士が献立を作成し、就労支援事業として職員と利用者で調理し、給食を提供している。主食と主菜の選択食をそれぞれ毎月1回行った。

(5) 総合防災訓練

感染拡大防止を図りグループ単位での避難訓練を実施した。月1回、発災時にヘルメットを速やかにかぶる練習として「ヘルメット訓練」を実施した。

(6) 第三者評価

令和3年度は福祉サービス第三者評価を受審した。

評価機関：一般社団法人 Riccolabo.

(7) 年間実績一覧

多機能型・定員	80名	見学者数(利用に向けての見学)	0名
利用者延数(年間)	16,628名	実習生(一般・学生等)延人数	23名
サービス提供日数(年間)	244日	事前の体験利用者数	33名
1日平均	78名		

10 ワークステージりぷる

1 事業運営

新型コロナウイルス感染症の感染予防を継続して行った。感染不安等から利用時間を短縮していた方も、少しずつ利用時間の延長を行ってきた。

作業生産活動は、コロナ禍で簡易作業の総量は減ってきているが、事業者からの信頼を得て受注量は増加している。また、法人内の他事業所との連動した共同作業を進めた結果、大口の受注や別の発注先からの同時受注などができ、受注量の増加に寄与した。売り上げ実績もコロナ禍以前の水準までではないが戻りつつある状況で、来年度以降に期待が持てる実績となっている。

引き続き外出活動は自粛したが、体を動かす活動と忘年会や新年会などの行事を、感染予防の対策を講じた上で実施した。

2 利用者の状況と活動全般

(1) 利用者数の状況（令和4年3月31日現在 単位：人）

①利用者数

事業別（定員）	前年度末	入所	退所	今年度末
就労継続B型（20）	22	2	0	24

②月別利用状況（稼働率は、定員20人に対する比率）

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
利用数	447	374	473	431	439	444	463	445	451	396	395	490	5,248
稼働率	106	104	108	102	105	111	110	111	113	104	110	111	108

③年齢別利用者数（平均年齢34.5歳）

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	合計
男性	1	6	2	6	1	16
女子	0	2	2	3	1	8
合計	1	8	4	9	2	24

④障害度数別利用者数

		愛の手帳					合計
		1度	2度	3度	4度	なし	
身障手帳	1級	0	0	0	0	0	0
	2級	0	0	0	0	0	0
	3級	0	0	0	1	0	1
	4級以下	0	0	0	0	0	0
	なし	0	5	8	10	0	23
	合計	0	5	8	11	0	24

⑤障害支援区分別利用者数

未確定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
4	1	6	10	3	0	0	24

(2) 活動時間

利用時間を 9:30～16:30 とし、11:00 と 15:00 に 15 分の休憩、12:30 より 60 分を昼食時間として活動を提供している。

なお、緊急事態宣言や新型コロナウイルス感染症対策のため個別利用時間による利用時間を認めている。

(3) 作業生産活動

①受注の状況

取引のある顧客の一部は、業界内で高いシェアを占める企業であり、作業量が枯渇することはほぼ無かった。内容はダイレクトメール発送代行（封入等）などの受注作業が中心である。複雑な工程も多く、扱う資材は不定形かつ大小重軽さまざまである。

機械を導入し前作業の効率化や確度の向上を図っている。利用者の技術向上とオートメーション機器導入による効率化を図り、受託量の増加を目標として活動を行ってきた。

また、法人内の他事業所との連携を図り、互いに繁忙と閑散を平準化し、全体で受注量の増加を図ることができた。

②売上実績（単位：千円）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
令和元年度	681	622	608	567	488	600	564	689	673	726	812	763	7,793
令和2年度	400	251	367	364	496	521	517	576	858	517	534	761	6,162
令和3年度	573	371	605	694	431	725	820	561	612	786	402	657	7,237

③作業環境整備

感染予防のために一人作業を中心としたことにより、従来の食堂スペースの 4 人掛けテーブルを廃止し、一人掛けテーブルとした。結束機や帳合機は、定期的なメンテナンスを行っている。冷暖房機を加増する時期にも、感染予防の換気対策として常時換気を実施した。

施設内の作業と休憩時間のメリハリをつけるために、休憩時間に音楽を流すなどの工夫を行った。

(4) 社会生活活動支援

①朝の会

従来、利用者が主体的に運営していた朝の会は、コロナ禍のために職員が一時的に運営を行った。

②特別活動

新型コロナウイルス感染症の感染防止対策をした上で、お盆の顧客が休みの時期にゆっくりとした体操活動を実施した。

忘年会は外部の施設を利用することなく、お弁当とお茶を外から注文して行った。新年会

は短時間でを行うように工夫した。ともに、マイクを利用して、一年の振り返りや一年の抱負を語ってもらった。

③外出活動

感染状況をみつつ、宿泊は断念し日帰りを計画したが、新型コロナウイルス感染症の拡大により今回は開催を見送った。

④個別支援計画とケース会議

開設以来使用しているケース記録システムが提供終了となるため、新たな記録システムに移行した。

(5) サービス提供記録

前日のサービス提供内容について、翌朝のミーティング後、利用者本人が確認、押印する方式を継続した。

(6) ケース検討

従来のケース記録システムの提供終了に伴い、新たなクラウド型のシステムに更新をした。

コロナ禍での家庭環境変化や利用時間の減少などがあったが、利用者は落ち着いて過ごしており、特別なケース会議は開催しなかった。毎朝ケース会議を行い、日常的な振り返りなどを行った。

3 地域関連機関や団体との連携

武蔵野市自立支援協議会当事者部会や、あったか祭りに委員を派遣し活動に協力をした。

4 職員研修

情報セキュリティ研修、虐待防止研修（読み合わせ、動画視聴）のほか、支援について施設長が定期的に研修を行った。朝の会等で課題となる個別事案のほか定期的なケース検討も行った。

5 苦情受付件数

0件

6 第三者評価

福祉サービス第三者評価を受審した。

7 その他

(1) 給食

武蔵野福祉作業所で調理した給食をランチケースに盛り付け、毎日提供した。また、コロナ禍のため支援を休止しているが、従来外食やお弁当などの買い物を奨励していたため、メニューを見てお弁当を買いに外出するご利用者もいらした。

(2) 広報誌

「りふる通信」を隔月で発行した。

(3) 保健衛生

定期健康診断、歯科検診（武蔵野市内在住者のみ）、医師による医療相談や看護師による日常健康管理を行った。

(4) 防災対策

きたまちハウスと連携して避難訓練を実施した。また事業所内のBCPの策定を行った。

8 年間実績一覧

多機能型・定員	20名	見学者数(利用に向けての見学)	4名
利用者延数(年間)	5,040名	実習生(一般・学生等)延人数	0名
サービス提供日数(年間)	241日	事前の体験利用者数	1名
1日平均	20.91名		

11 武蔵野市児童発達支援センターみどりのこども館 通園部ウィズ

1 事業運営

当事業所は武蔵野市より委託を受けている指定管理施設で、令和2年度より『相談部ハビット』との機能を合わせて、児童発達支援センター（児童福祉法）として運営している。児童の通所部門『通園部ウィズ』の対象児は3～5歳児で1日の定員は20名である。

今年度は子どもの登録が年間で21名、平均利用数が16.3/日、稼働率が80.0%であった。コロナ禍が続くケースによっては利用率が下がっており、昨年度同様にYouTubeでの動画提供や電話相談・教材提供などの在宅向け療育も実施しているが、ほとんどの保護者は登園を希望した。

行事は内容の縮小や方法変更（動画公開等）をしたものがほとんどである。開催した行事も参加者の人数を制限したり、時間を午前午後に分けたりしての実施となった。

2 利用児の状況と活動内容

(令和4年3月31日現在 単位：人)

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延べ利用人数	343	302	406	298	308	323	343	323	371	280	278	316	3,891

(1) 通園を利用した子どもの概況・年間を通じた状況

年齢別利用児数（

令和4年3月31日現在 単位：人）

	3歳児(年少)	4歳児(年中)	5歳児(年長)	合計
男児	1	9	4	14
女児	2	4	1	7
合計	3	13	5	21

障害程度別利用児数

(令和4年3月31日現在 単位：人)

		愛 の 手 帳					
		1度	2度	3度	4度	等級不明	なし
身 障 手 帳	1級	0	0	0	0	0	1
	2級	1	0	0	0	0	1
	3級	0	0	1	0	0	0
	4級以下	0	0	0	0	0	0
	等級不明	0	0	0	0	0	0
	なし	0	1	1	2	0	13

(2) 行事等（通園関係）

行事名	月日	行 事 内 容
入園式	4/6	入園式・保護者会なし（書面のみの配布）
保育園・幼稚園との交流 （手紙交換のみ）	直接交流は 中止	千川保育園、武蔵野中央幼稚園、 みやま幼稚園、北町保育園、吉祥寺保育園
親子遠足	雨天中止	（10月22日 小金井公園を予定）
家族参観日	6/19 12/18	保育参観 お楽しみ会
季節行事	7/9 9/10 2/18	あそぼうデー 運動会（保護者への動画配信） ミニコンサート（保護者参加なし）
誕生会		該当月の誕生祝い（保護者参加なし）
園外保育	中止	（乗り物体験 など）
プール		屋外プール（7月～8月）
卒園式・お別れ会	3/29	卒園式（就学5人、転園1人）
避難訓練	9/17 3/18	こども館全体訓練2回 災害時伝言ダイヤル訓練2期間
保護者会		年に3回実施（7月、12月、3月）
個別面談		年に3回実施（6～8月、11～12月、2～3月）
入園説明会	3/6	事業説明・利用契約・インテーク等
パイプオルガン体験	10/23、12/7	在園児向け、卒園児向け各1回ずつ

3 他機関との連携・協力等

- ・教育委員会：通園児の実態把握表の作成・提出、個別行動観察の受け入れ
- ・他療育機関：並行利用児の幼稚園訪問・電話連絡、児発事業者連絡会への参加（オンライン）
- ・子ども家庭支援センター：ケースについての連絡・協力
- ・特別支援学校：卒園児に係るカンファレンス、学校からの訪問受け入れ等
- ・図書館読み聞かせの会事業への協力
- ・保育実習生の受け入れ（4件）、ボランティア受け入れなし
- ・武蔵野市子ども協会学童クラブ職員の派遣研修受け入れ（6名）
- ・きょうだい交流会への参加
- ・利用児のサービス提供時間外預かり：13件

4 職員研修

- （1）事業所研修／音楽療法まとめ
- （2）館内研修／ケースカンファレンス、幼児救急法講習
- （3）外部研修／武蔵野東幼稚園支援プログラム見学

5 苦情受付件数 0件

12 武蔵野市児童発達支援センターみどりのこども館 相談部ハビット

1 事業運営

みどりのこども館では主として療育相談を実施。なお、計画相談件数が多いこと、新規の計画相談利用希望者はみどりのこども館へ案内しているため、計画相談も実施した。療育相談の新規受付件数、相談受理件数とも増加した。1か月の新規受理面接枠は22件を確保しているが、令和2年度末の申し込みが20件超であったため年度内に受理できず、令和3年度初頭に受理が持ち越したこと、6月の月間申し込み件数が平成28年の集計開始後過去最高件数となり、11月も次いで申し込み件数が多かったこともあり、待機日数が昨年度より増加した。

新規受付電話の中には、市内転入予定者や転入検討の為の情報収集、市民からの支援資源や受診先等の情報提供希望が増加しており、受理に至らないが、関係機関への照会や調査、他機関への紹介のための事前連絡、情報提供のため問い合わせ元と複数回のやりとりなどが、業務の1つになりつつある。

療育相談、計画相談についての利用手引書を作成し、新規利用者の不安軽減及び関係機関からの紹介のしやすさにつながるように努めた。計画相談は、新規申し込み件数に対し終了件数が少なく、計画相談開始以降、計画実人数が継続的に増加、モニタリング件数も右肩上がりの状況が続いてきた。市内や近隣市区の通所事業所の新規開設も続いており、計画相談件数増に歯止め見込みが立たないため、現体制では全件新規受付の継続は難しいと判断し、主管課等と協議の上9月以降、計画相談新規受付対象を限定した。

健康課フォロークラスへ職員1名を派遣。参加児のうち、ハビット初回相談へ直接つながった児はなかったが、健康課職員との円滑な関係作りに繋がった。

子育て支援、発達支援に関わる機関との連携強化及び役割分担を目的として、子ども家庭支援センター、教育支援センターそれぞれとの実務者会議を実施した。子どもと子育て世代への切れ目ない支援体制作りに向けた、子育て世代包括支援センター、教育支援センターとの3センター合同連絡会にも参加した。

2 事業内容 (令和4年3月31日現在の実績数)

(1)療育相談事業

新規相談	339件 (うちサテライト1件)
受理面接 (初回面接)	210件
継続相談	2,110件 (うちサテライト168件)
医療相談	35件 (17回実施)

(2)親子通園事業

グループ数	登録者数	実施回数	延参加数
1	4	9	21

(3)施設訪問事業

保育園・幼稚園	91件
学校	110件
その他	82件

(4) 計画相談支援

計画作成	55 件（サテライトと合算）
モニタリング作成	1,181 件（うちサテライト 856 件）
計画相談・モニタリングに関する相談	1,026 件（サテライトと合算）

(5) その他

① 家族支援

- ・保護者会…就学に向けた保護者会は学校種別・学級別で 4 回、児童発達支援事業利用に向けた保護者会は 1 回実施
- ・きょうだい交流会（年 2 回）…1 回はオンライン開催、1 回は令和 4 年度に延期

② 地域支援

- ・研修事業…ハビット地域支援講習会 発達基礎コース（全 9 回）／毎日型児童発達支援事業利用保護者向け講座（作業療法士）／北町保育園園内研修（理学療法士）／境南小学校特別支援研修会（公認心理士）
- ・ハビット×ぐるりん（年 3 回）…ハビットの専門職による利用者向けミニ講座と相談
- ・特別支援教育事業（随時）…特別な支援が必要な児が在籍する市内幼稚園からの武蔵野市補助金申請に対する園訪問及び意見書作成
- ・地域型保育事業に係る障害児加算意見書作成（随時）

③ 関係機関連携

- ・発達健康診査（健康課事業）に社会福祉士・理学療法士を派遣（15 回）
- ・健康課フォロークラスにコーディネーターとして 1 名派遣
- ・子ども家庭支援センターとの実務者連絡会（隔月開催）
- ・教育支援センターとの業務調整に向けた連絡会（3 回）
- ・3 センター合同連絡会（4 回）

3 苦情受付件数

2 件

13 武蔵野市児童発達支援センターみどりのこども館 相談部ハビットサテライト

1 事業運営

みどりのこども館相談部ハビットのサテライトオフィスとして、桜堤ケアハウス内で相談事業を行っている。主として計画相談を実施した。

西部地域住民の利便性向上のため、療育相談の初回相談も実施した。療育相談、計画相談についての利用手引書を作成し、新規利用者の不安軽減及び関係機関からの紹介のしやすさにつながるように努めた。

計画相談は、新規申し込み件数に対し終了件数が少なく、計画相談開始以降、計画実人数が継続的に増加、モニタリング件数も右肩上がりの状況が続いてきた。市内や近隣市区の通所事業所の新規開設も続いており、計画相談件数の増加が見込まれるため、主管課である障害者福祉課等と協議の上9月以降、計画相談新規受付対象を限定した。

障害者福祉課・パレット・ハビット、3者の会議において、放課後等デイサービスパレットの今後の利用者動向の見込みを共有した。

2 事業内容

- ・開所日 月～金 月 1回土曜日に相談を実施
- ・受付時間 9：00～17：00

(1)療育相談事業

- ・対象 0～18歳までの子どもとその保護者
- ・スタッフ 社会福祉士・保育士・事務員（非常勤）
- ・内容 心身の発達に心配のある子どもに対する家庭での支援・生活指導・関係機関との調整

(2)計画相談支援

- ・対象 0～18歳までの子どもとその保護者
- ・スタッフ 社会福祉士・保育士・事務員（非常勤）
- ・内容 法内障害福祉・児童通所サービス等の利用に関するプラン作成、モニタリング等

3 苦情受付件数

0件

【令和3年度 実績数】ハビットサテライト

療育相談	新規相談	1件
計画相談	計画作成（こども館と合算）	55件
	モニタリング作成（こども館と合算）	1,026件
	計画相談・モニタリングに関する相談	856件

14 武蔵野市児童発達支援センターみどりのこども館 おもちゃのぐるりん

1 事業運営

武蔵野市内在住の親子が自由に来館し、遊べる場を提供している。子どもの遊び場であり、保護者の交流の場となっている。常駐の職員がいることで気軽に子育ての相談ができ、また必要に応じて児童発達支援センター相談部ハビットと連携し、療育相談につなげている。今年度も、定員5組から定員10名に変更したうえで予約定員制とした。依然、新型コロナウイルス感染者数が落ち着かないこともあり、家で遊べる貸出し事業の利用は増え続けており、貸出しおもちゃの見直しをするなど、ニーズに対応できるよう努めた。

おもちゃ病院は事前預かり制にて対面を避ける形で実施、手作りおもちゃは毎月内容を変えて工作キットにして配布、ワークショップは人数を制限し、感染防止対策を講じた上で開催など、極力新型コロナウイルス感染拡大以前に行っていた事業を安全に実施できるよう努めた。コミセン親子ひろばや保育園で行われているあかちゃんのひろばにおもちゃを20点程度持参する出張ぐるりんについては、コミセン親子ひろばのみ月1回の頻度で実施した。「手作りファースト・トイ」(妊娠6ヵ月の方から生後5ヵ月までの子どもと保護者対象)は、対面(5組限定でひろば貸切)にて年4回開催した。

(この事業の運営は、武蔵野市子ども協会に委託している。)

2 事業内容

- ・事業 子どもと保護者がおもちゃで自由に楽しく遊べる場の提供
- ・対象者 市内在住の未就学児と保護者、利用料は無料
- ・開館日・時間 火～土の週5日間(日・月・祝日は休み) 10:00～16:00
※今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入替制(10:00～12:00、14:00～16:00)各定員10名とした。また、ランチタイムは引き続き休止となった。
- ・スタッフ 子育て支援員 正規職員2名 嘱託職員1名 アルバイト4名
*支援員は保育士・幼稚園教諭いずれかの免許取得者、アルバイトスタッフは無資格者有
- ・おもちゃの在庫数 約300種類あり季節ごとのテーマに合わせて常時70～80個を用意
- ・その他の実施事業

手作りおもちゃの会・季節の手作りおもちゃや工作の催し・貸出し事業・おもちゃ病院(おもちゃ修理)・畑での体験・外部講師によるワークショップ・ボランティアによるおはなしひろば及び催し・絵本の歌い聞かせ・ハビット×ぐるりん・みどりのこども館看護師と話そう!・らびっとひろば

3 活動実績 【令和3年度 実績数】

- ・開館日数 247日(前年度184日)
- ・利用児総数 3,554人(前年度2,356人)
- ・平均利用児童数 1日:14.4人(前年度12.8人)
- ・ひろば相談(随時対応) 235件

年齢別	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	その他	合計
利用児数	43	56	41	42	7	14	19	13	235

*その他は小学生の兄弟姉妹等

4 年間実施行事

(1) 参加人数等

(令和4年3月31日現在 単位:人)

① 手作りおもちゃの会

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、工作キット配布へ変更

4月	105人	7月	100人	10月	130人	1月	120人
5月	100人	8月	108人	11月	99人	2月	100人
6月	111人	9月	100人	12月	114人	3月	123人

② ハビット×ぐるりん

※ハビット職員によるミニ講座と座談会 定員5組(ひろば貸切にて実施)

5月25日	人見知り？慎重派？新生活は大丈夫？(公認心理師)	5人
9月28日	いつからできる？どんな風に手伝う？手先を使った生活(作業療法士)	5人
1月28日	ハイハイ、たっち、あんよ、基本の動きはどうして大事？	5人

③ みどりのこども館看護師と話そう(子育てに関するミニ講座と座談会)

7月13日	看護師と話そう♪季節のライフ&ケア	6人
10月19日	看護師と話そう♪季節のライフ&ケア	4人

④ その他のイベント

4月			10月	手作りファースト・トイ	7人
5月	手作りファースト・トイ 母の日プレゼントキット配布	8人 60人	11月	WS おうちクリスマスの飾りを作ろう	16人
6月	父の日プレゼントキット配布	57人	12月	手作りファースト・トイ	2人
7月			1月	コマをまわそうウィーク 節分工作キット配布	— 60人
8月	スタッフW ぷるぷるボトル作り	12人	2月	ひな祭り工作キット配布	60人
9月	敬老の日プレゼントキット配布 WS スナップバンド体験会	116人 18人	3月	スタッフWS サークルリングウェーブ作り 祝・卒園★リモーザで壁面を飾ろう	14人 11人

⑤ おもちゃ病院 (原則第4土曜日に開催) 実施回数:12回修理おもちゃ数:181件

おもちゃ病院協会のドクター養成講座に参加したおもちゃドクター6名が、壊れたおもちゃを無償で修理(材料費のみ個人負担)。個人・施設からの修理依頼を受付。※事前預かりとし、感染予防対策を講じた形で実施

⑥ おはなしひろば (毎月1回) ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

⑦ まっとうさんの絵本ライブ (隔月1回) ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

⑧ 初めまして♪ぐるりん (毎月1回) 実施回数:2回 参加人数:0人 初来館者への利用説明会

⑨ おもちゃの貸出し (毎週水・土曜日) 貸出し数:2,208件 登録者265人

子ども一人につきぐるりんの貸出しおもちゃ約140点の中から1点、1週間の貸出し

⑩ 出張ぐるりん (基本月1回開催) 実施回数:12回参加人数:111人

⑪ らびっとひろば (年9回開催) 参加人数:20人

ハビット利用児を対象とした親子ひろば(グループ活動時からスタッフがに入る形となり、グループと連携させた形で実施)

⑫ みどりのこども館あそぼうデー 事前予約、定員入替制にて実施

(2) 広報活動

① ぐるりんだよりの発行 偶数月に1,000部発行 保育園等に設置:配布箇所74施設

② ホームページやツイッターによる情報提供 ツイート数:306、フォロワー:482人

15 居住支援ユニットリエゾン

1 事業運営

昨年度から継続した居住支援事業の再編成について、年度当初の4月に「やはたハウス」廃止をもって完了した。事業全体が大きく変化したことから、令和3年度は利用者個人の主体性を尊重し、各利用者の暮らしのスタイルを活かしながら、特に新たにグループホームで暮らしを始めた10名の利用者について、各ユニットにおいて暮らしのスタイルの確立と安定化を目指した。

一方で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が生活全般に与える影響は大きく、各個人が利用している地域生活支援サービスの利用や外出を自粛したり、感染防止対策等によって、ストレスを抱えてしまう利用者も少なからずいて、全体としてバランスを取りながら、支援を行った。

2 利用者の状況と支援内容 (令和4年3月31日現在の実績数)

(1) 利用者の入居状況 (入居者合計 53名)

- ・せきまえハウス 男性6名
- ・きたまちハウス① 男性8名
- ・きたまちハウス② 男性7名
- ・くすの木① 男性4名
- ・くすの木② 男性9名
- ・かしの木(北館) 女性9名
- ・かしの木(南館) 女性10名

(2) 利用者数

	前年度	入所	退所	合計
男性	24	10	0	34
女性	17	2	0	19
合計	41	12	0	53

(3) 年齢別利用者数

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
男性	5	8	11	8	2	0	34
女性	0	5	9	3	2	0	19
合計	5	13	20	11	4	0	53

(4)障害程度別利用者数

愛の手帳		1度	2度	3度	4度	手帳なし	計
身障手帳	1級	0	1	0	1	1	3
	2級	0	1	0	2	1	4
	3級	0	0	0	0	0	0
	4級以下	0	1	1	0	0	2
	手帳なし	0	20	17	7	0	44
計		0	23	18	10	2	53

(5) 障害者総合支援法による障害支援区分の数

区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
0	9	12	18	9	5	53

(6) 利用日

年末年始を含めて通年利用

(7) 通所方法

本人単独で通勤・通所している方 37 名、通所施設の送迎を受けている方 16 名

(8) 年間利用状況

延べ人数 年間合計 14,436 人(利用サービス日数 365 日)

4月	5月	6月	7月	8月	9月
1,105	1,140	1,296	1,243	1,179	1,241
10月	11月	12月	1月	2月	3月
1,309	1,241	1,277	1,163	955	1,287

(9)活動全般

- ・年末年始も含め年間を通じた入居者の利用があった。
- ・入居者が新型コロナウイルスに感染したことにより、支援体制の維持が困難となり、利用自粛を求めた以外は、各ユニットは閉鎖せず営業を継続した。

(10)保健・食事

- ①健康管理：健康診断（1回）、歯科検診、インフルエンザワクチンの集団接種(10月)
- ②食 事：七福の配食サービスを利用するとともに、入居者の好みに応じた「お楽しみメニューの日」を設定し実施した。
- ③通 院：必要に応じて通院の付き添いを実施した。

(11) 家族関係

1年間の支援まとめの家族面談について、新型コロナウイルス感染症の感染リスクと居住支援事業再編成に伴う繁忙が予想されこともあり、昨年度は実施しなかった。今年度は希望制の形をとり、対面又はオンラインを活用して実施した。

また、家族の健康状態などを考慮し、週末の緊急利用に多数応えた。

(12) 見学者

新型コロナウイルス感染症の感染リスクから、原則受け入れは中止した。

(13) 制度利用の支援

訪問看護(4人)、訪問リハビリ(介護保険：1人、他1)、介護機器(介護保険：2)、訪問診療(3人)などの制度利用のために、多くの事業者と連携して支援した。

(14) 消防機器設備の定期点検の実施

各グループホームの自動火災報知設備と自動通報設備の定期点検(年2回)を行った。

(15) 防災訓練の実施

各グループホームにおいて、避難、消防設備の使用の確認、機材の使用確認など、複数回実施した。

(16) チャレンジ自立生活事業

事業運営について、きたまちハウスの短期入所事業で活用する居室とグループホームかしの木北館の居室を活用し、「チャレンジ自立生活事業」の計画案を準備していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大と、感染防止と利用者の心身の安全確保、居住支援事業の継続優先の考えから、今年度も中止とした。

3 地域関連機関や団体との連携

武蔵野市自立支援協議会地域移行部会、千川地域社協へは役員、桜野地域社協、関前地域社協へは運営委員の派遣を予定したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、実際に職員を派遣することは困難であった。

4 職員研修

(1) 法人研修

新人研修、入職3年目研修にそれぞれ当該職員を派遣した。

(2) 外部研修

東京都が主催する、「強度行動障害支援者養成研修」に1名、「グループホーム基礎研修」に3名をそれぞれ参加させた。

(3) 内部研修

昨年度に引き続き、好評であった研究発表形式での2回実施した。各発表者を次年度に法人の入職3年目研修を予定している職員2名が担当した。それぞれテーマを決め、調査発表を行い、グループワークにおいて議論の場を設けた。

5 苦情受付件数

1件

6 その他

令和4年2月入居者に新型コロナウイルスの感染者が判明し、同フロアの利用者にも感染リスクが高まった時期には、ユニットの一時閉鎖を実施し、法人内でスタッフ等の応援体制を組み対応した。

16 武蔵野市障害者福祉センター

1 事業運営

在宅心身障害者の通所訓練施設として昭和55年12月3日開設。障害のある方々が地域との相互理解と連帯を深めながら、各種事業を通じて社会参加と自立を目指し障害福祉の増進を図ることを目的として運営されている。平成29年度からは指定管理者制度を導入し、社会福祉法人武蔵野が施設管理とともに生活リハビリサポートすばる（自立訓練・生活介護）や障害者相談支援事業所ほくと等の事業所を一体的に運営している。

令和3年度開始当初は令和2年6月15日以降、貸出施設の利用者定員の削減（50%）や夜間の貸し出し禁止などを行っていたが、市の第85回新型コロナウイルス感染症対策本部会議の決定を受け10月25日から通常貸出しを再開した。講習会に関しては引き続きボッチャ、コーラス、パーカッションは実施せず、定員はこれまでと同じように約半分で行った。センター講演会については機能回復訓練室での直接参加とZOOMを利用してオンラインによる参加と言いう形で行った。

生活リハビリサポートすばるの自立訓練（機能訓練）、生活介護では新型コロナウイルス感染症による利用控え等があり、大幅な減収となった。

2 部門別報告（令和4年3月31日現在の実績数）

（1）管理部門

①部屋貸し（地下会議室、調理実習室、印刷室、録音室、視聴覚室）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数(件)	37	41	39	37	23	28	30	31	27	29	24	39	385
延人数(人)	158	170	164	180	73	96	144	172	153	126	97	164	1,697

（感染症対策のため調理実習室の貸出は行わなかった）

②通所移送事業

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延人数(人)	354	391	483	429	359	403	424	409	372	350	329	432	4,735

③障害者講習会（エアロビ、美術、太極拳、将棋、体操、椅子に座ってヨガ他）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延人数(人)	0	45	53	37	0	37	75	68	54	36	30	14	449

④医療相談

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数(件)	14	18	21	11	17	14	20	19	23	26	32	29	244

⑤行事・地域活動等

- ・センター講演会

令和3年11月13日(土) 出席者 会場33名 ZOOM 11名 計44名参加

- ・障害者福祉センター運営協議会

第1回 令和3年8月20日 令和元年度障害者福祉センター実績報告について

第2回 令和4年3月29日 令和4年度事業計画について

- ・安全対策連絡会議 2回(9月28日、2月21日)
- ・避難訓練 2回(10月7日、3月3日)
- ・千川福祉祭り、千川地区社協、サロン千川、東部フェスティバル、あったかまつりなどの地域活動は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から軒並み中止となった。
- ・千川地域防災会の役員会(令和4年1月13日)に参加。
- ・はちコミまつり(2月19日)に作品展示で参加。

⑥職員研修

- ・情報セキュリティー研修(内部研修)
- ・令和3年度虐待防止権利擁護研修(内部伝達研修)
- ・2050ゼロカーボンシティー研修
- ・家族支援について
- ・その他(施設長研修、中堅層研修など)

(2) 相談部門

①専門相談

ア) リハビリ相談(住宅改修、補装具等 電話、来所、訪問など) (延人数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
専門相談	65	48	84	59	120	76	45	60	53	61	51	78	800

- ・心のバリアフリー啓発事業の講師派遣
- ・同行援護従事者研修の講師

イ) ゆいっと相談件数(高次脳機能障害) (延人数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談(来所・電話・訪問)	123	100	92	103	141	133	104	84	97	144	112	143	1,376
上記内サロン	9	12	10	10	5	12	8	11	5	7	7	14	110

- ・高次脳機能障害関係機関連絡会 年1回 事務局機能としての活動
- ・高次脳機能障害関係機関連絡会運営委員会 年2回
- ・北多摩南部医療圏 高次脳機能障害者支援普及事業
- ・市区町村高次脳機能障害相談支援員連絡会

ウ) 視覚障害専門相談件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談(来所・電話・訪問)	55	50	80	56	54	65	59	60	66	61	57	80	743
内点字教室	9	10	14	10	15	13	9	12	11	14	4	14	135
内地域生活学習会	0	3	0	0	0	0	0	3	0	0	0	4	10
バリアフリー相談	12	0	6	1	5	1	3	3	3	6	4	8	52

- ・同行援護従事者養成研修会 講師
- ・同行援護従事者フォローアップ研修 講師
- ・心のバリアフリー啓発事業 講師
- ・武蔵野市バリアフリー工事、印刷物等への助言

②特定計画相談

- ・実績

障害別	契約者数(延べ)	計画作成数(延べ)	モニタリング実施数(延べ)
視覚	48	49	128
高次脳 他	24	21	48
身体	17	15	45

(3) 通所部門

①自立(機能)訓練(通所および訪問によるリハビリテーションサービス)

午後1時～4時 毎週月～金 1日の定員 10名

- ・実績 (延人数) 平均3.1人/日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	
自立訓練	通所	51	46	45	36	29	40	58	69	63	43	50	63	593
	訪問	2	2	1	0	0	1	1	1	0	1	0	0	9
市単(通所)	0	0	12	28	28	25	9	0	0	0	10	34	146	
計	53	48	58	64	57	66	68	70	63	44	60	97	748	

- ・利用者の状況

(性別/年齢)

年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	計
男	0	1	1	2	4	2	0	10
女	1	1	0	3	1	1	0	7
計	1	2	1	5	5	3	0	17

(障害手帳の内容)

障害名	肢体障害	視覚障害	重複 (視覚・精神)	重複 (肢体・精神)	重複 (肢体・知的)	精神	なし
人数	8	0	0	3	0	1	5

②生活介護（通所デイサービス）午前10時～午後4時 毎週月～金 1日の定員10名
 ・実績 平均5.2人/日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
生活介護	133	105	133	118	114	114	105	93	82	87	68	99	1,251
市単独	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	133	105	133	118	114	114	105	93	82	87	68	99	1,251

・利用者の状況

(性別/年齢)

年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	計
男	0	0	2	2	1	3	0	8
女	0	0	2	1	3	0	0	6
計	0	0	4	3	4	3	0	14

(障害者手帳の内容)

障害名	肢体障害	視覚障害	重複 (視覚・精神)	重複 (肢体・精神)	重複 (肢体・知的)	精神	なし
人数	5	3	0	4	1	1	0

3 苦情受付件数

1件

17 わくらす武蔵野

1 事業運営

障害者地域生活支援ステーションわくらす武蔵野は、平成31年3月の開所から、丸3年余りが経過した。実施事業としては、施設入所支援、生活介護（日中活動）、なごみの家・短期入所事業、指定特定相談支援事業、行動援護、貸館事業（地下1階オリーブホール）のほか、令和2年度より引き続き「在宅要介護障害者受入態勢整備事業」（介護の必要な障害をもつ人の家族が新型コロナウイルスに感染した場合に、障害のある人を緊急一時的に短期入所施設で介護することにより、障害のある人への感染予防と家族が安心して療養に専念できる環境を整備する事業）を受諾している。

新型コロナウイルス感染症については、東京都看護協会等の感染症対策研修を全職員が受講するなど感染対策を進めたところであったが、令和4年1月から3月の期間に合計8件の関係者の陽性判定があった。

施設入所支援について、令和3年度は退所者1名、入所者3名であった。入所者用居室38床のところ、現在36名が入所となっている。このほか体験入所用の居室が2床あるが、令和3年度は新型コロナウイルス感染対策として実施しなかった。

生活介護について、令和3年度は退所者2名（2名とも転居による）であった。これにより現在利用者数は39名となっている（定員50名）。

短期入所・なごみの家事業については令和3年度も大きな影響を受けた。わくらす武蔵野の短期入所は生活ユニット内（4か所）と3階の生活スペースに設置されているため、ユニット内での感染を防ぐために一定程度利用を制限せざるを得なかった。その中でも緊急度の高い短期ニーズになるべく応じられるようにするため、3階生活スペースにて個別に対応することは継続した。

貸館事業（オリーブホール）について、市の公共施設の貸し出しルールを参考に事業を継続した。実績は2団体のべ26件だった。

また、わくらす武蔵野は、武蔵野市における地域生活支援拠点等の中心的な役割を果たすことが期待されている。令和3年度は武蔵野市地域自立支援協議会の部会に「地域生活支援拠点部会」が設置され、施設長が部会長となって武蔵野市における地域生活支援拠点のあり方について地域の関係団体と協議し、提言をまとめる部会運営をした。

2 利用者の推移（令和4年3月31日現在の実績数）

(1) 施設入所支援

年度	令和元	令和2	令和3
利用者数	36	36	36

(2) 体験入所

年度	令和元	令和2	令和3
利用者数	4	2	0

(3) 生活介護（通所利用者）

年度	令和元	令和2	令和3
利用者数	5	4	4

(4) 行動援護

年度	令和元	令和2	令和3
利用者数	1	1	1

(5) 計画相談

年度	令和元	令和2	令和3
利用者数	39	39	39

(6) 短期入所

年度	令和元	令和2	令和3
利用者数（市内）	42	15	16
利用者数（市外）	3	0	0

月別利用件数（件数は1日単位）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
短期入所	4	17	21	2	3	0	0	17	2	8	47	52	173

(7) なごみの家

年度	令和元	令和2	令和3
利用者数	114	31	57

月別利用件数（件数は1日単位）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
なごみの家	5	5	2	8	11	4	7	7	3	3	0	2	57

3 地域関連機関や団体との連携

(1) 貸館事業

① 4chu-caféの会（オリーブホール）「自習室」

年間22日間開催

② ナーシングホーム（オリーブホール）「体操のつどい」

12月に4回開催

月別利用件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	0	2	2	2	2	2	2	2	6	2	2	2	26

4 職員研修

- ・感染症対策研修（オンデマンド）のべ44名
- ・虐待防止研修（動画視聴）のべ42名
- ・口腔ケア研修（対面講義）のべ40名
- ・令和3年度東京都強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）（オンライン）のべ10名受講
- ・リスクマネジメント研修（録画視聴）のべ7名
- ・ファシリテーション研修（録画視聴）のべ7名
- ・強度行動障害支援 公開基礎講座（オンライン）のべ1名
- ・令和3年度第1回虐待防止・権利擁護オンライン研修（オンライン）のべ1名
- ・マジエルカ 障害のある人の福祉作業所でのモノづくりのあるべき姿をご提案（オンライン）のべ6名
- ・令和3年度東京都虐待防止・権利擁護研修（障害者福祉施設等職員コース）（オンライン）のべ1名
- ・令和3年度東京都相談支援従事者研修（オンライン）のべ2名受講
- ・利用者さんが飲んでいる薬を知ろう（オンライン）のべ3名
- ・管理者のためのアンガーマネジメント研修（オンライン）のべ2名
- ・虐待防止研修（オンライン）のべ1名
- ・とっさの対応を学ぶ（オンライン）のべ5名
- ・3施設合同研修（オンライン）のべ2名
- ・障害児者のための栄養ケアマネジメント（オンライン）のべ1名
- ・家族支援研修（オンライン）のべ3名

- ・移乗、移動支援研修（録画視聴）のべ12名
- ・認知症支援研修（録画視聴）のべ20名
- ・実習指導者研修（オンライン）のべ2名
- ・メンタル研修（オンライン）のべ1名

5 苦情受付件数
5件

6 その他

- ・武蔵野市地域自立支援協議会親会委員派遣
- ・武蔵野市地域自立支援協議会地域生活支援拠点部会委員派遣
- ・武蔵野市の福祉避難所として市と協定締結
- ・障害者支援施設等の新型コロナウイルス感染防止対策研修講師派遣
- ・大野田福祉の会地域防災の会に職員派遣
- ・大野田小学校6年生総合的な学習ゲストティーチャー派遣

18 武蔵野市桜堤ケアハウス

1 事業運営

武蔵野市桜堤ケアハウス（軽費老人ホーム）の1年間の利用者動向は退所者が4人、新規入居者は3人となった。また60代入居者も3名、70代入居者3名、80代以上の入居者が18名と高齢化が進んでいる。以前から入居されている方々には、軽度知的障害、理解力・記憶力等の低下などの精神・認知機能に障害がある方もいる一方、ここ2年ほどのコロナ禍の中では、心身機能の低下、とりわけ下肢筋力、咀嚼・嚥下機能の低下、人と接する機会が極端に減り認知機能の低下を有する入居者が増え、入居者同士の良好な人間関係を保てない方も増えてきており、身の回りの世話や生活相談などの支援力が求められている。このような状況下において、その人らしさを大切に、良好な関係を築きながらケアハウス及び地域での生活を継続できるよう、個々の心身の状態に合わせた相談支援を講じている。

2 サービス提供形態と利用実績

サービス種類：軽費老人ホーム(ケアハウス)		延べ利用者数	利用率
定員	29名(個室25室・2人部屋2室)	8,548名	80.8%

3 ケアハウス利用者の状況について（令和4年3月31日現在の実績数）

(1) 入退所状況 ※退所者4人は1名が長期入院、3名は他施設への転居 (人)

	令和3年度当初	退所	入所	令和3年度末
男性	11	2	0	9
女性	14	2	3	15
合計	25	4	3	24

(2) 年齢構成等

<平均年齢>

(歳)

区分	男性	女性	全体
平均年齢	80.00	85.50	84.13

<年齢構成>

	60-64	65-69	70-74	75-79	80-84	85-89	90-94	95-99	100-	合計
男性	0	2	0	2	2	2	1	0	0	9
女性	0	1	0	1	4	4	4	0	1	15
合計	0	3	0	3	6	6	5	0	1	24

(3) 要介護認定状況

※総合事業対象者は、令和3年度当初1名、令和3年度末0名

令和3年度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均介護度
当初	0	0	10	3	2	0	0	1.47
年度末	0	0	9	3	1	2	0	1.73

(4) 外部サービス利用状況

*重複あり

性別	ホームヘルプサービス	通所系サービス	訪問看護	訪問リハビリ
男性	5	4	3	1
女性	5	4	1	0
合計	10	8	4	1

4 その他の実績

(1) ボランティア・配食サービス等

- ・ボランティア活動延人数：8名
- ・配食サービス数：390食(おせち4食込)

(2) 多世代交流としてスペース提供(乳幼児・児童等と入居者との交流機会)

平成30年度から3階・和室を、月曜から金曜日の平日(祝祭日除く)の午後に、市内の小・中学生を対象に学習教室の場所として無償貸出している。金魚や亀を飼っている正面玄関脇の池は、近隣の小規模保育室・保育ママさんの乳幼児たちの散歩コースとして開放し、定期的に交流を図っている。また入居者が作成した手作りマスクや雑巾を近隣の保育園や小学校に寄贈し間接的交流に努めた。

5 食事提供、健康管理等

(1) 食事提供状況 (令和4年3月31日現在 24名)

利用者の食事形状では下表のような状況がみられている。

常食	24名	粥・おかず普通(きざみ等)	0名
----	-----	---------------	----

日々の健康状態を食事摂取状況からも把握ができるため、調理部門職員と生活相談員とが連携する。行事・伝承食(伝統的文化食)を組み入れ、季節感のある食事の提供を行った。また「ご意見箱」を活用し、リクエストを献立に随時反映した。さらにコロナ禍で外出制限のある中、少しでも楽しみのもてる食事になるよう、メニューの創意工夫を行った。

(2) 健康管理等の状況

入居者自身の病識の低さや服薬管理が難しい入居者へは、定期的に健康相談の利用を勧めた。

また、安心・安全な日常生活を送って頂けるよう、コロナ禍の中で心身機能及び日常生活動作の維持向上を目的にさわやか健康クラブでは、専門の講師を招いての介護予防体操を月1回、定期開催し、入居者のフレイル予防に努めた。

6 相談支援等

入居者の高齢化、虚弱化、さらに、理解および記憶の機能低下等により、集団生活上のルール、マナーなどが守れなくなってきた方が増えており、入所者間でのトラブル、人間関係上の精神的な抱え込みも多くなってきている。そのため、一人ひとりの状況に合わせた相談支援や関係機関との調整を図り、また家族(保証人)とも連絡を取り合いながら対応している。

保証人自体が高齢化しており、亡くなられた方や疎遠となられているケースも増えてきており、現状の経済面に関する支援や入院時の身上監護、次の生活の場に向けて、適切な関係機関と連携した支援の必要度が増してきている。この他に、昨年度から入居者全員に対して、入居者の日常生活における要望などを伺い、ケアハウスで「安心・安全な生活」が送れるよう個別支援計画書を作成している。

健康管理・疾病等に関すること(体調管理、通院介助、医療機関との連絡調整など)	667件
日常生活全般・精神的なケア(食生活・住環境等の生活面、人間関係調整等)	1,252件
介護保険等の制度利用に関すること(制度の紹介や申請・手続き、関係機関への繋ぎ)	187件

7 各種事業実績

(1) 年間行事の実施状況

行事名	実施日	行事内容	参加人数 (人)
入居者個別面談	5月上旬から6月下旬にかけて実施	入居者と職員の個別相談	24
七夕行事	6/21～7/8	少人数で飾り作りや飾り付けを実施	延べ13
夏の夕食会	7/12	夏の雰囲気を楽しんでもらいながらの食事会	23
キッチンカー体験	7/15	新しい食の楽しみ方として実施。	19
ミニ縁日	7/17	季節感を楽しんで頂く機会として昼食時に実施	19
選べるアイスの日	8/10、23、24、9/2	季節感を楽しんで頂く機会として昼食時に実施	延べ64
ケアハウス食堂①	8/19	昼食時に、お選び頂いた定食を提供	19
敬老祝い寿司	9/13	夕食時に、お寿司の御祝い膳を提供	19
敬老の会	9/19	昼食時に、賀寿のお祝い、お祝い膳	18
ミニ秋祭り	10/15、11/11	アヒルすくい、輪投げなど	延べ34
ケアハウス食堂②	10/21	昼食時に、お選び頂いたランチを提供	17
冬の夕食会	12/6	アイスクリームのフアンパショを楽しむ夕食会を実施	21
季節の湯	12/22	ゆず湯	20
新年のお祝い膳	1/1	昼食の際に新年会を実施	20
節分(豆まき)	2/3	昼食時に節分大福を楽しみ、1階正面玄関前での豆まきを実施	延べ26

(2) 趣味活動、他の実施状況

活動名	活動回数(実施月)	活動概要、他
さわやか健康くらぶ	月1～2回	体操のインストラクターによる健康体操
手作りの会	月1回(中断あり)	地域のボランティアによる小物づくり教室
入居者懇談会	年6回(偶数月実施)	入居者と職員による懇談会(行事等の案内、利用上のルール確認)
避難訓練	年5回 (5・8・10・12月)	学生寮生と合同の夜間、日中・夜間想定防災訓練
健康相談	週1回	配置医師による健康面、持病等に関する相談

8 入居者の募集・選考、入居の問い合わせ

募集・選考

令和3年5月に二人部屋・2部屋の募集を行った。二人部屋の応募は、二組の応募があり、両組とも該当であったが、一組が辞退。もう一組も手続きを進めていたが、途中、対象者の体調不良により辞退された。令和3年9月に一人部屋・2部屋と二人部屋と二人部屋1部屋の募集を行った。一人部屋は11名の方が面談希望、二人部屋への問い合わせはなく、一人部屋の該当者は5名だった。抽選の結果、2名が当選し1月と3月に入居した。ほか3名の方は令和3年度末までに空きがでた場合の補欠者とし、1名の方が3月に入居した。令和4年1月に二人部屋・2部屋の募集を行ったが、問い合わせや、応募者はなかった。

※年間通して、在宅介護・地域包括支援センターへの入居募集の紹介などを行いながら、3回の入居募集を積極的に実施した。

9 職員研修

(1) 今年度より新たにケアハウス全体で研修委員会を設置し、年間計画を立てて研修担当者による虐待防止・事故防止・感染症対策等の講義を行い、ケアハウス職員の資質向上を図った。取り急ぎ、職員の意識が他人事から我が事に変容し、自ら研修内容の必要性を理解して、他の職員にも周知徹底したことは相乗効果が得られた。

(2) 桜堤ケアハウス職員全体研修会の実施

開催日	研修内容	参加者数
2/18(金)	桜堤ケアハウス全体研修会 第1部：「大規模災害（大地震）対策と応急手当について」 <u>講習/実技</u> ○階段避難車（キャリガン）、○機械室（非常食・備蓄品）、避難者静養場所等 ○救命講習（窒息からの心肺蘇生） ＊21名の職員を3グループに分けて、ミニ講習と実技を受けた。 第2部：「社会福祉事業従事者人権研修～福祉現場における人権～」 <u>動画配信</u> ○職業倫理 ○プライバシーと個人情報との関係 ○人権侵害（虐待行為） ○リスクマネジメントと尊厳 など ＊1階食堂にて十分な換気などの予防策を徹底した上で、動画視聴を行った。	21名

10 その他

(1) 大規模修繕等の工事について

工事名称	工事期間
食堂の壁の補修工事	2月17～18日
食堂内手洗い場水道をセンサー式に交換	2月25日

(2) 新型コロナウイルス感染症に対する対応について

令和2年1月末から東京都並びに武蔵野市などからの新型コロナウイルス感染症情報を踏まえて、新型コロナウイルス感染症への対応を準備した。ケアハウス入居者・来館者などに対してお知らせ文を通じての注意喚起や具体的な予防策（マスク着用・手洗い・手指消毒等）の周知徹底、また玄関内にサーマルシステム導入（自動検温機器の設置）、食堂等への飛散防止パネルの設置など感染防止に努めた。これにより3月末時点では入居者・職員の罹患者は発生していない。

※入居者へは、朝夕2回の検温をお願いして記録して頂くよう促している。

またケアハウスでは不要・不急の外出自粛、行事の中止に伴い、入居者の心身のストレス軽減及び生活不活発化（特に下肢筋力の低下）防止を目的に、生活相談員による配茶サービス、居室における体操プログラムの紹介、ケアハウス敷地内での園芸活動支援にも取り組んだ。

11 苦情受付件数

0件

19 桜堤ケアハウス在宅介護・地域包括支援センター

1 事業運営

武蔵野市の西部地域(桜堤・境・関前)の高齢者総合相談窓口として、地域にお住まいの高齢者やその家族に対して、医療・介護・福祉サービスの情報提供・利用調整や、権利擁護に関する支援など、24時間365日絶え間なく行ってきた(電話受付については、夜間帯はゆとりえへ転送)。また、市役所内にある「基幹型地域包括支援センター」との協力体制を取りながら、地域包括ケアシステム実現・推進に向けて取り組みを行ってきた。あわせて、地域で活動する民間ケアマネジャーに対して、相談・支援等のサポートも充実させてきた。

地域においては、独居・認知症・身寄りのない等の課題に対する個別地域ケア会議、エリア別地域ケア会議をテンミリオンハウス利用者にスポットを当てて開催し、地域住民や関係機関とともに、次年度以降も地域課題を考えていくきっかけづくりを行うことができた。

また、当圏域内にあるいきいきサロンについては、生活支援コーディネーターが中心となって運営の維持・存続に努め、今年度は新たに開設された1か所の運営支援も行い、令和3年度は8カ所となった。

外出の機会が減り、自宅で過ごす時間が長くなり、筋力の低下等がみられる地域の高齢者をサポートする目的で、看護師と生活支援コーディネーターが中心になってフレイル予防の取り組みを行い、ケアハウス以外の拠点を増やす準備を「テンミリオンハウス・きんもくせい」と行った。

2 相談の状況と支援・活動内容 (令和4年3月31日現在の実績数)

(1) 在宅介護支援センター事業

①実相談件数

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数(件)	381	346	342	306	340	287	304	330	330	342	287	342	3,978

*年々相談は増加傾向。

②相談実人数

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数(件)	297	286	286	261	279	242	256	262	316	288	237	279	3,289

*年々相談は増加傾向。

③実態把握

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数(件)	140	131	141	157	155	112	132	148	181	149	135	147	1,728

*年々相談は増加傾向。

④認定調査件数

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数(件)	28	21	27	33	54	52	38	49	60	56	35	35	488

*新規同行調査：165件。

⑤ケアプラン作成数

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
介護（件）	6	8	7	8	6	7	7	6	6	7	6	7	81
予防（件）	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	5

* 民間ケアマネジャーが対応することがむずかしいケースを中心に担当。

(2) 地域包括支援センター事業

①虐待防止（虐待対応件数）：15件 *重複あり

身体的：14件	経済的：0件	心理的：1件	性的：0件	介護放棄：0件
---------	--------	--------	-------	---------

②権利擁護等対応件数：51件 *重複あり

成年後見制度関連：33件	消費者被害：1件	困難事例：17件
--------------	----------	----------

③地域連携等件数：20件

地域連携会議：14件	介護予防啓発：6件	他機関との連携：0件
------------	-----------	------------

④ケアマネ支援件数：648件

個別の相談：321件	同行訪問：287件	担当者会議へ出席：40件
------------	-----------	--------------

* 地域包括3職種以外の職員も専門的な相談を受け、随時対応を行っている。

(3) 認知症相談

開催日	4/21	7/21	10/20	1/19	合計
件数（件）	3	0	3	1	7

* 4/21 内 1 件は電話相談。年 4 回場所を提供し、職員が相談に立ち会う。

3 地域関連機関や団体との連携

(1) 家族介護者教室

開催日	6/29	11/24	12/24	3/23	合計
参加人数	9人	5人	3人	3人	
開催場所	こころテラス	こころテラス	こころテラス	こころテラス	20人

* 毎年 4～5 回開催のノルマあり。

(2) 地区別ケース検討会（11回）

開催月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
参加人数（人）	24	22	18	16	休会	17	20	20	18	11	19	18	203

* 毎月 1 回開催される、在支・包括が主催するケアマネジャー参加の勉強会。

(3) 地域ケア会議（エリア別 1 回・個別 3 回）

会議種別	エリア別	個別				合計
開催日	3/17	8/30	11/29	3/10		
参加人数（人）	8人	7人	10人	9人	34人	

* 毎年エリア別・1回、個別・3回開催のノルマあり。

(4) 認知症サポーター養成講座・ステップアップ講座・地域認知症講座

① 認知症サポーター養成講座

開催日	6/15	11/26	合計
参加人数	31人	8人	
開催場所	武蔵野赤十字病院	イトーヨーカドー	
参加団体	病院職員	イトーヨーカドー職員	39人

② ステップアップ講座

開催日	9/27	10/20	11/24	合計
参加人数	35人	29人	29人	
開催場所	スイングホール	スイングホール	市民会館 地下集会室	93人

③ 地域認知症講座

開催なし

(5) 民生児童委員との定例会（2回）

開催日時	10/26	2/25	合計
参加人数	19人	中止	19人

*2/25 新型コロナウイルス拡大の影響で中止

(6) 地域連携に関わる講座

開催日	10/20	10/23	11/30	12/19	2/22	合計
参加人数	40人	20人	10人	9人	11人	
開催場所	スイング ホール	サンヴァリエ 桜堤	きんもくせい	西部コミセン	オンライン	
参加団体	老人会	老人会	きんもくせい	新日本婦人の 会（桜堤班）	きんもくせい	90人

*毎年老人会やきんもくせいをはじめとした地域の団体からの講座依頼あり。

(7) いきいきサロン事業（8か所）

サロン名	サロン開催時間	サロン事業内容	開設年度
iki なまちかど 保健室	毎週 水曜日 10:00～12:00	健康運動指導士による体操、講座（保健・医療・福祉に関すること等）、ラダー体操、コグニサイズ、手話ソング	H29年度
マルセサロン	毎週 木曜日 14:00～15:00	体操、ぬり絵、朗読、風船バレー、交流会	H29年度
五丁目クラブ	毎週 木曜日 13:00～15:00	体操、カラオケ、交流会	H28年度
どんぐり広場	毎週 金曜日 14:00～16:00	体操、ラダー体操	H30年度
ルンルンサロン	毎週 土曜日 14:00～16:00	折り紙、書道、絵手紙、健康講座、ちぎり絵	H28年度

なのはなサロン	毎週 日曜日 10:00～11:30	体操、座ってフラダンス、ボッチャ、栄養講座	H29 年度
サロン式番館	毎週 水曜日 10:00～11:00	体操、ふまねっと、ボッチャ、テーブルゲーム、手話ソング、スリーエー	R1 年度
さわやか	毎週 月曜日 14:00～16:00	体操、交流会	R3 年度

*月1回、生活支援コーディネーターがいきいきサロンのモニタリングを実施。また、適宜運営支援等を実施。

4 職員研修

開催月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数 (件)	2	5	1	3	3	1	2	6	6	9	4	0	43

*研修内容内訳：

地域包括職員向け研修・ケアマネジャー研修・新規主任ケアマネジャー研修・認知症コーディネーター関連研修・生活支援コーディネーター関連研修・権利擁護研修・高齢者虐待防止研修・市内在宅介護・地域包括支援センター研修

5 苦情受付件数

0件

6 その他

相談件数は毎年増加しており、ケアハウス圏域においては、高齢化率は最下位であるが、丁目数（13：桜堤・3、境・5、関前・5）、認知症出現・認定率はすべて市内6センターの中で1位という数字になっている。

最近の特徴として、市内6センターの中でも新規相談が最も多く、その中でもターミナル（終末期）、権利擁護に関わる相談が多くみられ、長い時間をかけて対応するケースが増えている。またコロナ禍で、コロナウイルスワクチンの接種支援等、新たな対応も増えた。

20 武蔵野市放課後等デイサービスパレット

1 事業運営

当施設は武蔵野市より委託を受け(指定管理)、児童福祉法の放課後等デイサービス事業として運営している。事業対象児は就学児の6歳から18歳で、1日の定員は10名。武蔵野市の方針として、利用要件は主に身体障害児および医療的ケアが必要な児童で、かつ保護者が就労している児童が対象となっている。

今年度は事業開始2年目にあたり、利用児に対して学校や家庭とは異なる環境で、社会経験の幅を広げ生活能力の向上を支援できるよう、家庭や学校と連携を行いながら事業運営にあたった。

年度当初より徐々に既存の利用児の利用回数や新たに利用児を増やす予定であったが、コロナ禍の中でのコロナ感染や季節柄体調不良で当日キャンセルとなるほか、定期通院や補装具の作成などで休む児童もあり、結果的には新規利用児は1名であった。この他に昨年度に引き続き、遊具・事務用品及び備品の追加購入を行い、コロナウィルス感染症防止対策の徹底を図りながら利用児の受け入れを行った1年であった。

2 利用児の状況と活動内容

(1) 年齢別利用児数 (令和4年3月31日現在 単位：人)

	小学低学年生	小学高学年生	中学生	高校生	合計
男児	2	2	1	1	6
女児	2	2	1	0	5
合計	4	4	2	1	11
内、車いす通所	1	1	2	1	5

(2) 通所実績 (令和4年3月31日現在)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
予定	91	76	93	84	103	85	88	84	88	88	79	100	1059
実績	75	63	81	76	83	71	67	71	80	57	65	78	867
利用率	82.4%	82.9%	87.1%	90.5%	80.6%	83.5%	76.1%	84.5%	90.9%	64.8%	82.3%	78.0%	81.9%
日数	21	18	22	20	21	20	21	20	20	19	18	22	242

(3) 提供時間及び活動内容

【サービス提供時間】

- ・学校終了後：14:30～18:00

- ・学校の長期休暇（春休み・夏休み・冬休み）：9:30～17:00

【活動内容】

個別支援計画に沿って、遊びや活動を通して、基本的生活動作の練習や社会性の向上などの発達支援を行った。

- ・自立支援と日常生活の充実のための活動として、基本的日常生活動作の獲得や上達のため職員の支援を受けながら自分でできること、支援を受けながら行えることを確認してきた。一人でできた時や協力動作があった時には認めていくことで達成感や自己肯定感が味わえるよう配慮している。
- ・創作活動では、自然を感じられる様に積極的に外出する機会を設けた。季節を感じられる様に職員から言葉かけをしたり、散歩中に集めた木の実や木の葉を使用して製作活動を行った。
- ・地域との交流の機会の提供では、コロナ禍の状況で外部との交流をすることはできなかったが、桜堤ケアハウスという環境の中で、入居者さんから言葉をかけて頂いたり、信陽舎の学生がアルバイトにきたりと関わる機会を設けることができた。
- ・余暇の提供では、利用児の興味のある遊びを考えて提供してきた。その中で、好きな遊びを友達や職員と行ったり、個人だけでなく複数で活動する時間を設けたりと、放課後の時間を楽しく過ごせる場になるよう設定して、利用児支援に努めた。

3 地域関連機関や団体との連携

今年度は昨年同様にコロナ禍において、近隣機関との地域連携は難しい状況だった。

一方で開設1年を通じてパレット利用児は施設内にて、他部署のスタッフやケアハウス入居の高齢者にはよく声をかけていただき、利用児も笑顔で挨拶するなどの微笑ましい場面もありました。

またお迎えの送迎において、パレットは身体障害児を対象としているため、他事業所「おれんじ学園 nico」と連携して、利用児の送迎支援を行った。

この他に下記の関係諸団体との連絡調整、確認を行った。

- ・教育委員会と大野田小のスクールバス送迎ルート調整
- ・子ども家庭支援センターとのケースについての連絡・協力体制の打ち合わせ
- ・送迎ルートの調整を含めた放課後等デイサービスおれんじ学園 nico との打ち合わせ
- ・武蔵野市障害者福祉課保健師による見学と情報交換 等

4 職員研修

パレット職員も含めてケアハウス全体で研修委員会を設置し、年間計画を立てて定期的に研修担当者による虐待防止・事故防止・感染症対策等の講義を行い、パレット職員の資質向上を図った。取り急ぎ、職員の意識が他人事から我が事に変容し、自ら研修内容の必要性を理解して、他の職員にも周知徹底したことは相乗効果が得られた。

- (1) 桜堤ケアハウス・パレット職員全体研修会の実施

開催日	研修内容	参加者数
2/18(金)	桜堤ケアハウス・パレット全体研修会 第1部：「大規模災害（大地震）対策と応急手当について」 講習／実技 ○階段避難車（キャリダグ） ○機械室（非常食・備蓄品）、避難者静養場所等 ○救命講習（窒息からの心肺蘇生） ＊21名の職員を3グループに分けて、ミニ講習と実技を受けた。 第2部：「社会福祉事業従事者人権研修～福祉現場における人権～」 動画配信 ○職業倫理 ○プライバシーと個人情報の関係 ○人権侵害（虐待行為） ○リスクマネジメントと尊厳 など ＊1階食堂にて十分な換気などの予防策を徹底した上で、動画視聴を行った。	21名

(2) 外部研修の受講

5/31	online 熱中症予防講演会（Web 講座）
8/19, 9/15	虐待防止・権利擁護研修（Web 講座）
9/2, 3, 7, 17	強度行動障害基礎研修（Web 講座）
11/10～19	東京都サービス管理責任者基礎研修及び児童発達支援管理責任者基礎研修 「相談支援従事者初任者研修（講義部分）」（1, 2, 3 日目）（Web 講座）
12/8, 9	東京都サービス管理責任者基礎研修及び児童発達支援管理責任者基礎研修 （4, 5 日目）（Web 講座）
1/5～7	東京都サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者専門コース別研修 （Web 講座）
11/7～2/6	東京都医療従事者向け講習会（全 6 回）（Web 講座）
12/16～3/31	東京都障害者支援施設等の新型コロナウイルス感染防止対策研修（Web 講座）
2/1	令和 3 年度 東京都医療的ケア児支援者育成研修（Web 講座）

5 苦情受付件数

0 件

6 その他

(1) ボランティア・実習生

今年度はコロナウイルス感染症流行のため受け入れはなかった。今年度の保育実習生も受け入れを行っていない。

ボランティア活動延人数	0人
パレット見学者数（一般・行政・事業所関係者見学）	10人
見学者数(利用に向けての見学) *保護者説明会見学含む	(保護者等) 3人 (児) 1人
実習生(一般・学生等)数	0人
事前の体験利用者数	0人

(2) 避難訓練

ケアハウス建物全体で2回、火災時の避難訓練を実施した。

開催名	開催日	実施内容
避難訓練	8/24 12/24	ケアハウス館内全体火災訓練2回(8月・12月)

21 特別養護老人ホームゆとりえ

1 事業運営

令和3年度は特別養護老人ホーム(以下、特養ホームという)の退所者が7名と多く、利用率は前年度の97.9%から97.0%へ低下。ショートステイを含めた全体の利用率も前年度の98.3%から97.7%と低下した。特養ホームの要介護度状況をみると、要介護5の割合が6割を超え、平均要介護度も令和2年度の4.54から4.56と毎年高くなっている。ショートステイの要介護状況では、要介護3の方が一番多く利用し、平均要介護度は3.71となっている。令和3年度末現在の入所希望待機者は346人。待機者は昨年度317人より増加している。

今年度も新型コロナウイルス感染予防のために直接利用者と接するボランティアや実習生等も中止せざるを得ず、地域との交流や余暇活動、バザー、敬老会や新年会のような家族を交えたイベントも行えなかったため、開かれた施設を維持することは出来なかった。ご家族との面会は、窓越し及びオンライン面会を実施。感染者が減少した時期にはアクリル板越しの対面面会も再開したが感染拡大があり、看取り期の利用者以外の対面面会は継続出来なかった。コロナ禍が続く中でも8時間夜勤への移行による日中帯の配置増の効果を、利用者の余暇活動・行事を開催し、還元することができた。

体調不良により勤務を限定した職員もいたが、人員体制は概ね安定していた。職員が新型コロナウイルスに感染することもあったが、幸いにも施設内での感染拡大はなく、利用者にも新型コロナウイルスの感染者は発生していない。

2 利用者の状況と支援・活動内容

(1)利用実績(令和4年3月31日現在の実績数)

①利用人数(特養定員30名、ショートステイ2名+空ベッド)

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
特養入居者	883	925	870	915	930	857	882	889	901	897	779	896	10,624
ショートステイ	64	67	64	69	66	66	72	69	67	66	72	54	796

②入退所

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
退所(人)	/	1	/	/	/	2	/	/	1	2	/	1	7
うち看取り	/	1	/	/	/	2	/	/	1	1	/	1	6
入所(人)	2	/	/	1	/	1	1	/	/	1	1	/	7

③介護度状況

要介護	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	平均介護度
延べ人数(人)	/	/	753	3,148	6,723	10,624	4.56
割合	/	/	7.0%	29.6%	63.4%	/	/
ショートステイ	/	31	351	274	140	796	3.71

④年齢構成

年齢	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	100歳代	合計	平均年齢
男性			1	3		4	91.5
女性	1	3	4	13	3	24	90.0
合計	1	3	5	16	3	28	90.2

⑤入所希望待機者

要介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	平均介護度
入所希望人数	7	21	115	113	89	345	3.74
割合	2.0%	6.0%	33.3%	32.7%	26.0%		

3 利用者の状況（令和4年3月31日現在の実績数）

(1)排泄介助

自立者	3人	昼夜トイレ介助	4人
昼夜オムツ交換（排便時トイレ介助）	8人	日中トイレ介助・夜間オムツ交換	13人

(2)食事介助

①摂取状況

自立者	2人	見守り・声掛け・一部介助	14人
経管栄養（胃ろう）	2人	全介助	10人

②食事形態

普通食	1人	ペースト・一部ペースト	19人
一口大	6人		

③補助食品

高栄養ドリンク	1人	トロミ剤使用	18人
高栄養デザート	10人		

(3)入浴介助

個別浴槽（自立・一部介助等）	1人	個別浴槽（電動リフト使用）	13人
機械浴槽	14人		

(4)医療・看護ケア（延べ人数）

①医療的ケア

経管栄養（胃瘻）	2人	痰の吸引	3人
バルーンカテーテル（膀胱洗浄）	2人		

②通院

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
通院件数 (件)	4	1	2	3	1	4	3	4	9	6	6	5	48
救急搬送(件)	/	/	/	/	/	/	2	1	/	2	1	/	6

③入院

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入院者数 (人)	/	/	/	/	/	/	2	2	/	2	2	/	8

④夜間オンコール件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
ドクターメイト	/	/	/	/	/	1	2	/	/	1	/	/	4
ゆとりえ	/	/	/	/	4	1	2	/	1	1	/	1	10
夜間臨時出勤	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0

⑤歯科診療

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
協力歯科 (人)	5	4	5	5	5	5	6	5	6	6	7	/	59
歯科診療 (人)	10	6	10	7	8	9	13	11	8	7	8	4	101

4 主な行事

5/2～5	菖蒲湯	6/7	おやつイベント
6/22	てるてる坊主作り	7/5～7	七夕行事
8/22	スイカ割り	9/19	敬老会
9/21	十五夜行事	10/3	夕涼み行事
11/16	落ち葉フロタージュの会	12/20～23	柚子湯
12/19・24	クリスマス会	12月～1月	年末年始
1/11	新年会(餅つき)	2/3	節分

* ご家族や外部講師は不参加。

* 中止 (ハンカチの木バザー、盆法要、吉祥寺礼祭、福祉の輪、工作活動、お茶会、近隣学校保育園交流、家族懇談会等)

5 ご家族面会

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
オンライン	1	1	2	1	1	1	/	/	/	/	1	1	9
窓越し	10	13	9	8	9	11	13	8	/	6	8	7	102
対面	/	/	/	/	/	/	/	5	15	5	/	/	25

※看取り対象の入居者については、一定の条件下で対面面会を行っている。

6 スペース開放（秋桜の会：失語症の会 第2土曜日）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
参加人数(人)							7	8	8	9			32

*中止（セカンドサンデーゆとりえのつどい、パッチワークの会）

7 職員研修

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
内部研修(人)	1		2	17	12	13	23	12	37	5	20		142
外部研修(人)				1									1

*研修内容内訳：新規採用職員研修、排泄ケア、感染予防、身体拘束、半年後職員研修、2年目職員研修、情報セキュリティ、看取りケア、虐待防止、認知症ケア、中堅層リーダー研修、3年目職員研修、LIFE勉強会、ターミナルケア、認知症介護実践者研修、

8 苦情受付件数

3件

9 その他

(1)利用者調査（11/5 NPO 法人日本ライフサポーター協会）

(2)暮らしの保健室 mini（デイサービス家族介護支援プログラム 12/5 参加）

22 ゆとりえデイサービスセンター

1 事業運営

感染症収束が見えない中、密を避け活動中はひとテーブルにお一人、パーテーション使用、消毒業務継続、活動も昨年度同様マイクの使用は避け、お話の会の再開は見送った。制限された活動の中でも身体を動かす工夫をしたり、保育園児とは窓越しの交流や、手作りの折り紙、カードをプレゼントしたりと新たな活動形態を模索した。ボランティアの参加は限定的に行った。

職員の補充はせず、週2日の周辺業務と週2日の朝の添乗業務のみの非常勤職員は継続し、業務分担を行った。日常的に生活相談員が添乗や介護業務に入り、昨年同様の感染症対策を行った。新規利用者獲得のためパンフレットを見やすくし、事業所に活動紹介のアピールを行ってきたが登録者数は減少傾向が続き、稼働率も利用者受け入れ制限をした昨年ほどは落ち込まなかったものの6割前後で推移した。外出が制限されていることから要支援者の問い合わせや新規利用があった。また、別居していた独居高齢者を家族が呼び寄せ、同居するケースも数件みられた。

利用者の特徴としては、昨年同様医療対応の方は少なく、運動機能の低下していないお元気な認知症の方への丁寧な対応が求められていた。昨年度以上に超高齢化がすすみ90歳以上が約6割、100歳以上の方も7名在籍しており細やかな配慮が必要となっている。

2 デイサービス利用者の状況と支援・活動内容

(1) 利用実績（令和4年3月31日現在の実績数）

① 利用人数（9：00～16：30 定員40名）

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延べ要介護者	572	552	545	547	542	552	529	568	552	485	436	527	6,407
延べ介護予防	4	4	5	4	3	0	0	6	8	6	10	8	58
稼働率	65.4	66.2	62.5	63.1	61.9	62.7	62.9	65.2	66.7	61.4	55.8	58.2	62.6
実人数	78	76	76	72	73	74	72	75	73	72	72	72	

② 介護度別利用延べ人数

要介護	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	平均介護度
延べ人数(人)	1,819	1,285	1,996	1,068	239	6,407	2.61
割合	28.4	20.1	31.1	16.7	3.7		
介護予防	要支援1	要支援2	総合事業	合計			
延べ人数(人)	1	57	0	58			
割合	1.7	98.3	0				

③ 年齢構成

年齢	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	100歳代	合計	平均年齢
男性	0	0	3	3	1	7	89
女性	0	2	24	33	6	65	90
合計	0	2	27	36	7	72	89.7

④入浴利用者数

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延べ入浴者数	113	99	88	92	95	99	84	86	85	72	64	83	1,060

⑤給食

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延べ提供数	576	556	550	551	545	555	529	574	560	494	446	535	6,471

⑥送迎

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延べ利用数	1,145	1,103	1,090	1,096	1,085	1,094	1,052	1,142	1,108	976	888	1,066	12,845

⑦医療処置

処置内容	延べ人数		
在宅酸素	104人		

*介護教室、施設ボランティア懇談会、地域ボランティア懇談会は新型コロナウイルス感染症の感染予防のため未実施。

(2) サービス提供内容

①週間スケジュール

曜日	月	火	水	木	金
午前	○健康チェック（血圧、脈拍、顔色など） ○朝のつどい ○口腔体操 ○体操（スウェーデン体操、音楽体操） ○うた、レクリエーション ○排泄ケア ○入浴<月～金曜日>				
昼食	○食事介助	○服薬	○口腔ケア	○排泄ケア	
午後	手芸 アートクラブ カラオケ 移動美容室 個別対応 個別機能訓練	絵手紙 カラオケ 書道 個別対応	みどりの会 カラオケ 個別対応	書道 カラオケ 個別対応	コーラス 手芸 染め物 唱歌の会 個別対応 個別機能訓練

*カラオケはマイクを使用しない。利用者同士の距離をとるため集まって行うプログラム(麻雀や旅の友、口琴クラブ)は行えず、緊急事態宣言中は活動ボランティア不在のため休止したプログラムも多い。

②主な行事

行事・活動名	期 日	内 容
花見ドライブ	中止	市内の桜の名所を小グループでまわる
長寿を祝う会	9/14～17	楽器演奏やマジックショー、祝膳で楽しむ
新年会	1/11～14	楽器演奏やマジックショー、祝膳を楽しむ
コンサート	20回	・うたクラブ=20回

近隣学校との交流	随時	近隣保育園窓越し発表・交流、三中よりお花の鉢
「食」に関する活動	随時	イベント食(12回)
親子広場	中止	乳幼児親子と高齢者との交流プログラム(第2金曜日に開催)
その他		・散髪(中止) ・移動美容室(6回)

3 武蔵野市受託事業 (令和4年3月31日現在の実績数)

(1)配食 (おせち含む)

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
利用数	120	102	84	72	78	84	89	77	54	48	36	37	881食

(2)会食型食事サービス (ゆとりえキッチン)

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実施日数	1	0	1	2	0	0	4	4	4	4	3	4	27日
利用者数	1	0	2	4	0	0	1	0	0	2	2	2	14人
テイクアウト			3	3	8	14	14	17	22	20	26	36	163食

*テイクアウトはゆとりえ独自サービス

(3)家族介護支援プログラム (家族懇談会)

①暮らしの保健室 mini (個別、グループによる医療・介護等相談の場)

利用月	4	6	8	10	12	2	合計
参加者数(市民)	6	中止	中止	6	8	中止	20人
相談者数	2			5	2		9人

*東部福祉の会、吉祥寺東コミュニティ協議会、本宿コミュニティ協議会、市民社協、ゆとりえによる実行委員会で開催。東コミセン、本宿コミセンで交互開催。

②ゆとりえオンライン家族介護者グループ相談会

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
相談者数					1	1	2	0	0	1	2	1	8人

4 地域貢献事業 (令和4年3月31日現在の実績数)

(1)食事の提供

①もったいない食堂ちよこっと応援弁当 (特養・デイ事業)

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
利用数				13	18	9	6	14	26	19	19	32	156食

*毎週水曜日昼食テイクアウト弁当 200円 10食限定

武蔵野市子ども・コミュニティ食堂ネットワーク参加事業

②ゆとりえ独自配食 (特養・デイ事業)

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
利用数								1	51	81	76	67	276食

*月曜日～金曜日（祝日あり）昼食テイクアウト弁当 500 円。市配食と併せて1日 15 食限定。

5 地域関連機関や団体との連携（令和4年3月31日現在の実績数）

(1) 実習生受入（特養・デイ・支援での延べ人数）

武蔵野第三中職場体験学習	中止	杏林大学・看護学生実習	4人
社会福祉士現場実習	26人	教員介護等体験実習	中止
その他	0人	合計	30人

(2) ボランティア活動

① ボランティア活動実績（特養・デイ共通）

*ハンカチの木バザーは中止

特別養護老人ホームでの活動		
洗濯物たたみ	188人	
整容	中止	
食事下膳	中止	
余暇活動、他（お茶会、クラブ活動、行事参加、傾聴、歌、他）	中止	小計 188人
デイサービスセンターでの活動		
フロア活動（配下膳、話し相手等）	326人	
趣味活動等（プログラム活動講師・助手、補助等）	355人	
コンサート、小学生、保育園児、他	21人	小計 702人
その他の部門での活動		
植栽、庭水まき	57人	
配食配達	97人	
事務連絡会、バザー他	中止	小計 154人
合計 1,044人		

② ボランティアポイント（ポイント数）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
シニア支え合い	8	6	0	0	0	0	0	0	0	0	6	8	28
ゆとりえポイント	58	19	35	35	25	27	70	71	78	71	46	60	595

*シニア支え合いポイントは市の受託事業。ゆとりえボランティアポイントは独自サービス。

6 職員研修（令和4年3月31日現在の実績数）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
参加件数（件）	0	0	0	0	0	1	2	0	0	1	1	1	6

*研修内容内訳：ファシリテーション研修、指導職研修（アサーティブ研修）、認知症研修、ボランティアコーディネーター研修（すべて ZOOM・動画配信）

7 苦情受付件数 0 件

23 ゆとりえ在宅介護・地域包括支援センター

1 事業運営

武蔵野市の東部地域(吉祥寺南町・吉祥寺東町・御殿山1丁目)の高齢者総合相談窓口として、各種介護支援サービスの情報提供・総合調整、権利擁護、地域支援等の高齢者福祉サービスの事業を24時間365日行った。

住民主体のさまざまな支え合いづくりや地域づくりへの取り組みを、生活支援コーディネーターはじめ職員が一丸となって取り組んできたが、新型コロナウイルス感染症により積極的な活動には至らなかった。外出の機会が減少したことによる心身機能の低下も顕著となり、大きな課題となっている。前年度のゆとりえラジオ体操を継続し、月2回の定例開催で、年間で延べ215名の地域住民が参加された。東部福祉の会や本町在宅介護・地域包括支援センターと共催で、吉祥寺東町の宮本小路公園での開催が実現し、地域でフレイル予防に取り組んでいる。

また、南町福祉の会と共催の認知症カフェ「カフェ君の名は」は、新型コロナウイルスの感染拡大により蔓延防止措置等の中、1回の開催であった。実行委員会は各月で継続しており、カフェの再開に向けて検討を継続している。

個別相談支援の特徴としては、精神疾患を抱える家族や家族介護力の不足により生活の限界点を迎える独居高齢者への対応に困難性があるため、地域住民の支えが重要となっている。個別地域ケア会議、エリア別地域ケア会議により地域住民を含めたケア体制に取り組んでいる。

2 相談の状況と支援・活動内容（令和4年3月31日現在の実績数）

(1) 相談実績①述べ相談件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数(件)	282	294	307	288	295	310	320	295	326	296	236	271	3,520

②相談実人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数(人)	219	222	235	251	234	244	266	251	254	245	187	270	2,878

③実態把握件数（訪問＋支援方針会議）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数(件)	136	116	131	142	143	166	152	165	172	132	121	161	1,737

④認定調査件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
更新調査件数	24	16	34	45	44	54	46	54	48	57	45	43	510
新規同行件数	2	1	0	1	0	4	1	8	0	0	2	1	20

⑤ケアプラン作成数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
介護給付(件)	8	8	8	8	8	8	8	8	10	9	7	5	95
総合事業(件)	5	5	5	5	6	6	6	6	6	6	5	6	67

*民間ケアマネジャーが対応することが難しいケースを中心に担当。

(2) 地域包括支援センター事業の報告 (令和4年3月31日現在の実績数)

①虐待防止(虐待対応件数) : 13件 *重複あり

身体的 : 7件	経済的 : 1件	心理的 : 8件	性的 : 0件	介護放棄 2件
----------	----------	----------	---------	---------

②権利擁護等対応件数 : 40件 *重複あり

成年後見制度関連 : 12件	消費者被害 : 2件	困難事例 : 37件
----------------	------------	------------

③地域連携等件数 : 234件

地域連携会議 : 52件	介護予防啓発 : 47件	他機関との連携 : 135件
--------------	--------------	----------------

④ケアマネ支援件数 : 214件

個別の相談 : 122件	同行訪問 : 71件	担当者会議へ出席 : 21件
--------------	------------	----------------

*地域包括3職種以外の職員も専門的な相談を受け、随時対応を行っている。

(3) 認知症相談

開催日	4/7	8/4	11/14	2/2	合計
相談件数(件)	市で対応	1	3	1	5

*電話相談は0件、対面で行った。年4回場所を提供し、職員が相談に立ち会う。

3 地域関連機関や団体との連携 (令和4年3月31日現在の実績数)

(1) 家族介護教室

①ほほえみサロン

開催日	7/20	12/17	3/10	合計
テーマ	感染症予防	認知症予防	介護保険制度	
開催場所	東町コミセン	南町コミセン	本町コミセン	
参加人数	4人	16人	6人	

②認知症カフェ (カフェ君の名は) *ゆとりえデイルームにて南町福祉の会と共催

開催日	5/22	7/24	9/25	11/27	1/22	3/26	合計
参加人数(人)	中止	中止	中止	13人	中止	中止	13人

(2) 地区別ケース検討会 (11回)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
参加人数(人)	23	23	24	20	20	21	休会	19	18	14	14	15	211人

*毎月1回開催される、在支・包括が主催するケアマネジャー参加の勉強会。

(3) 地域ケア会議 (エリア別1回・個別3回)

	エリア別	個別			合計
開催日	3/8	9/24	11/11	2/7	
参加人数(人)	12人	13人	14人	7人	46人

(4) 認知症講座

①認知症サポーター養成講座

開催日	7/8	11/16	合計
開催場所	武蔵野商工会館	武蔵野赤十字病院	
参加団体	一般市民	病院職員	
参加人数	18人	29人	

②認知症ステップアップ講座

開催日	9/27	10/20	11/24	合計
開催場所	オンライン+サテライト3会場（武蔵野プレイス、武蔵野商工会館、市役所）	武蔵野スイング・スカイルーム	武蔵野スイングホール	
参加人数	32人	29人	29人	

(5) 民生児童委員との定例会（2回）

1回目	7/19	7/26	合計
	9人	9人	
2回目	2/21	2/22	18人
	中止	中止	

* 2回目は新型コロナウイルス拡大の影響で中止

(6) 地域連携に関わる講座

開催日	10/28	11/20	1/15	2/21	合計
開催場所	東町コミセン	南町コミセン	本宿コミセン	南町コミセン	
参加団体	銀友会	南町2丁目会	本田北クラブ	祥南クラブ	
テーマ	介護予防	介護保険	地域の見守り・孤立防止	地域の見守り・孤立防止	
参加人数	21人	10人	20人	16人	

4 支え合いの仕組みづくり・介護予防（令和4年3月31日現在の実績数）

(1) いきいきサロン事業（2か所）

サロン名	サロン開催時間	サロン事業内容	開設年度
吉祥寺ささえあいビレッジ	毎週金曜日 10:00~11:30	体操、うた、トーンチャイム、ハンドベル、手話ソング	H27年度
公園口サロン	毎週火曜日 9:30~12:30	体操、卓球	H27年度

* 月1回、生活支援コーディネーターがいきいきサロンのモニタリングを実施。また、適宜運営

支援等を実施。

(2) ラジオ体操

① ゆとりえラジオ体操

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
第1回	6	6	6	10	10	16	15	0	6	0	8	0	83人
第2回	0	0	8	10	9	17	17	20	14	13	12	12	132人
参加人数合計	6	6	14	20	19	33	32	20	20	13	20	12	215人

② 公園ラジオ体操

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
宮本小路公園												20	20人

(3) フレイルを防ごう！

開催日	5/1 ~ 7/31	12/1 ~ 12/28	合計
立ち寄りポイント	ゆとりえ	東町コミセン 本宿コミセン	
参加人数	1人	5人	

*週1回立ち寄りポイントに出かけてスタンプをもらう活動。

5 職員研修

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
参加件数(件)	4	5	7	6	7	1	8	3	11	7	13	8	80件

*研修内容内訳：

地域包括職員向け研修・ケアマネジャー研修・認知症コーディネーター関連研修・生活支援コーディネーター関連研修・権利擁護研修・高齢者虐待防止研修・市内在宅介護・地域包括支援センター研修

6 苦情受付件数

0件

7 その他(課題)

相談の特徴として精神疾患のある家族が介護している困難なケースが増えている。権利擁護や認知症初期集中支援につながるケースも多く、終結まで非常に時間を要する。コロナ禍で新規相談も多く、多職種との連携やケアマネジャー支援が必要な状況である。またコロナウイルスワクチンの接種支援等、新たな対応も増えた。

コロナ禍、介護予防の取り組みとして、ラジオ体操を通したゆとりえ独自の新たな取り組みにより、地域とのネットワークの構築に貢献するべく、今後も努めて行く。

24 R E N G A収益事業

1 事業運営について

令和2年度末で、重度身体障害者グループホームRENGAをグループホームの再編により事業転換し、令和3年11月より収益事業を開始した。

市内の社会福祉法人に建物を貸すことで、木造2階のレンガ作り風の建物はこれまで通り福祉事業を継続し、地域福祉に寄与することとした。

得られた収益は、将来の修繕等にかかる費用に充てるため、修繕費積立金として積み立てた。

2 事業概要

- | | | |
|------------|--|--|
| (1) 建物概要 | 建物名称 | R E N G A |
| | 所在地 | 武蔵野市八幡町3-3-26 |
| | 構 造 | 木造2階建て |
| | 床面積 | 284.76㎡ |
| (2) 事業内容 | 1階 | 放課後等デイサービス事業 10名(定員/1日)
(第2種社会福祉事業) |
| | 2階 | ガイドヘルパー派遣事業(移動支援、同行援護)
(第2種社会福祉事業) |
| (3) 賃貸期間 | 令和3年11月1日～2年間(更新あり) | |
| (4) 賃借料 | 550,000円(月額) | |
| (5) 賃借人 | 社会福祉法人おおぞら会 | |
| (6) 事業サポート | ① 定期的な建物メンテナンスの実施(電気設備、消防設備、外構清掃)
② 近隣住民等と良好な関係が気付けるようサポートする。 | |

